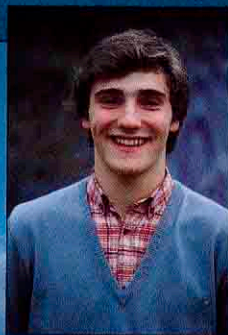
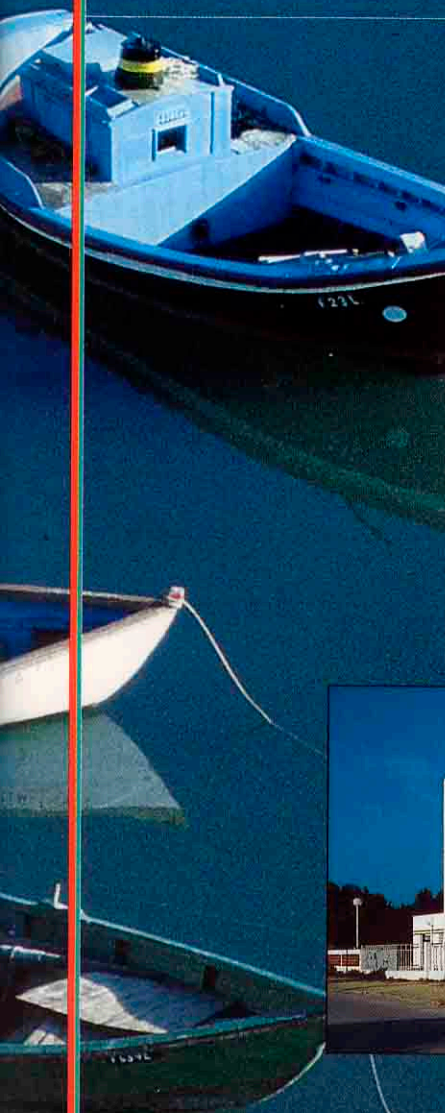


1988
2

聖徒の道

末日聖徒イエス・キリスト教会



本書は「エンサイン」「ニューエラ」「フレンド」の記事を抜粋した、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本書は以下の言語で出版されています。月刊——イタリア語、英語、オランダ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語、ノルウェー語。隔月刊——インドネシア語、タイ語、タヒチ語。季刊——アイスランド語。

大管長会：エズラ・タフト・ベンソン、ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン
十二使徒定員会：マリオン・G・ロムニー、ハワード・W・ハンター、ボイド・K・バックナー、マービン・J・アシュトン、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ジェームズ・E・ファウスト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン
顧問：ヒュー・W・ピノック、ジーン・R・クック、ウィリアム・R・ブラッドフォード、キース・W・ウィルコックス
編集長：ヒュー・W・ピノック
教会機関誌ディレクター：ロナルド・L・ナイトン
編集主幹：ラリー・A・ヒラー
編集副主幹：デビッド・ミッチェル、ジャン・U・ピンボロー
編集主幹補佐：アン・レムリン
子供の頁編集：ダイアン・プリングマン
レイアウト/デザイン：N・ケイ・スティープンソン、シャリ・クック
制作：レジナルド・J・クリステンセン
マーケティング・マネージャー：トーマス・L・ピーターソン

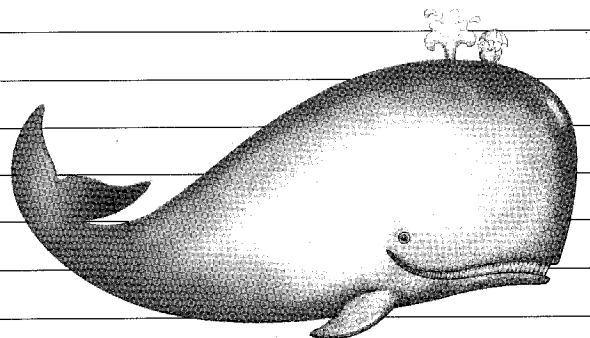
聖徒の道 1988年2月号第32巻第2号
発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-440-2351
印刷所 株式会社 精興社
定 価 年間予約/海外予約2,200円(送料共)
半年予約1,100円(送料共)
普通号150円、大会号(1,7月号)350円
International Magazines PBMA8802JA
Printed in Tokyo, Japan.
Copyright © 1988, by the Corporation of the President of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved.
●定期購読は、「聖徒の道」予約申し込み用紙でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/東京0-41512)にて管理本部経理課へご送金いただければ、直接郵送いたします。●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課 ☎03-440-2351 (代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒194東京都町田市小川1704-1/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎0427-96-2820

Published monthly by the Corporation the President of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. Application to mail at second class postage rates is pending at Salt Lake City, Utah. Subscription price \$9.00 a year. \$1.00 per single copy. Thirty days' notice required for change of address. When ordering a change, include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both the old address and the new are included. Send subscriptions and queries to Church Magazines, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, United States of America. Subscription information telephone number 801-531-2947.
POSTMASTER: Send form 3579 to "Seito no Michi" at 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, United States of America.

聖徒の道 1988年2月号

●——もくじ

天の家——永遠の家族	トーマス・S・モンソン	2
家庭訪問メッセージ		
「愛は寛容であり、愛は情深い」		7
モルモン経が与えてくれるもの		
確かな証	アーデス・G・カップ	8
私の人生を変えた書物	ジョセフ・G・C・ジュン	9
「助けて……、そして子供たちをお守りください。」	メット・ハンセン	12
赦しについて子供に教える —— 両親へのガイド ——		15
質疑応答		18
真の偉大さ	ハワード・W・ハンター	20
ニーファイと荒野への旅		
—— 学術調査とモルモン経 ——		25
ポルトガルの聖徒たち	ドン・L・サール	27
末日の女性		
—— ルビアン・セクイ ——	ジャン・アンダーウッド・ピンボロー	35
結婚生活		
—— 最優先にすべき人はだれ？ ——	スティープ・F・ギリランド	38
—— 若人のために ——		
みたまと自由意志	グレン・L・ペイス	42
建築活動で築いた証		47
各地のたより		
子供のページ(別冊付録)		
わたしはだれでしょう？/おもちゃばこ		2
信こうで動くリアホナ		4
日記をつける		6
わたしの日記		8



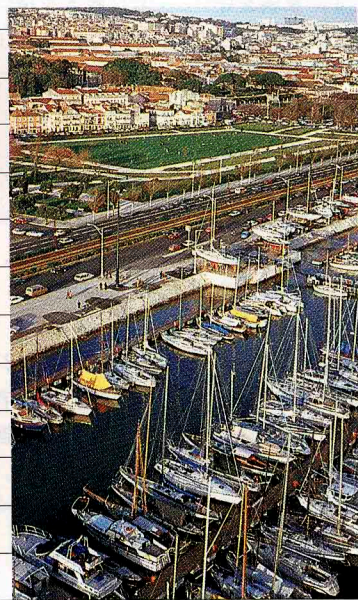


表紙：ファル港

(裏)ポルトガル国旗

(本文『ポルトガルの聖徒たち』

参照)



天の家 永遠の家族

第二副管長
トーマス・S・モンソン

家庭は正しい生活の基であり、その大切な働きに取って代わることができるものはほかに何もないということを、私たちは歌や話などを通してよく思い起こします。

家は、木、石、コンクリートなどで造られますが、家庭を築きあげるのは、愛、犠牲、お互いの尊敬の念です。家族を守る家はまさしく安らぎの場とすることができます。家族には大家族もあれば、小さな家族もあります。年齢構成の高い家庭もあれば若い家庭もあります。よい状態の家庭もあれば、疲労、怠惰、墮落の徴候が出ている家庭もあります。父親、母親、息子、娘が皆そろっている家庭もあれば、ひとりだけという家庭もあります。

しかし家庭は永遠のものであり、決して絶えることはありません。

主に学ぶ

自分の家庭を築く準備をしている人、また現在の家庭をもっと天国に近いものにしようと考えている人も含めて、私た

ちは皆主に学ぶことができます。主は偉大な設計士であり、これまでに私たちにもどのように家を建てたらよいかを教えてくださいました。

今私たちが畏敬の念を込めて聖地と呼ぶ地域の村や町のほりにまみれた道を歩いたり、ガリラヤ湖のほとりで弟子たちに教を説いたときに、主はたとえ話や人々がよく知っている言葉を用いて話されました。特に家を建てることを引き合いにして話をされたことは何度もあります。「おおよそ、……内わで分れ争う町や家は立ち行かない。」(マタイ12:25) 後の時代にも次のような警告をしておられます。「見よ、わが家は秩序の家にして混乱の家にあらず……。」(教義と聖約132:8)

1832年12月27日にオハイオ州カートランドで、予言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示の中で主はこう勧告しておられます。「汝ら組織して必要なる物をことごとく調べよ。而して、祈りの家、断食の家、信仰の家、学問の家、栄

光の家、秩序の家、神の家なる一つの家を建つべし。」(教義と聖約88:119)

賢明な方法で、また間違いのない家造りをするための設計図として、これ以上に確かなものをほかに見つけることができるでしょうか。このような家こそ、マタイの記録の中に書かれている「岩の上」に建てられた家と言えるのではないのでしょうか。このような家は、問題の多い現代の世の中ではごく普通のことになっている苦難の雨、敵意の洪水、疑いの風に遭遇しても、決して倒れることはありません。(マタイ7:24-25参照)

しかし、中にはこう言う人がいるかもしれません。「この啓示は神殿の建設について与えられたもので、家庭生活とは無関係ではないのでしょうか。」

そのような人にはパウロの言葉をもって答えたいと思います。彼はこう宣言しています。「あなたがたは神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。」(I コリント3:16)

主が書かれた設計図に従って、自分の家を築こうではありませんか。そうすれば私たちは確かに家を造ることができるのです。ここで家を建て始めるに際して踏まえておくべき神の導き、人生の教訓、問題となる事柄についていくつか考えてみたいと思います。

ひざまずき祈る

ダビデの子であり、イスラエルの王で

もあつたソロモンは次のように言っています。「心をつくして主に信頼せよ、自分の知識にたよってはならない。

すべての道で主を認めよ、そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。」

(箴言 3：5-6)

アメリカ大陸においても、ニーファイの兄弟ヤコブが次のように宣言しています。「心を堅く保って神を頼み、固く信じて神に祈れ。」(モルモン経ヤコブ 3：1)

神から与えられたこの勧告は、乾き切った大地を潤す清水のように、現代の私たちの渴きを癒してくれます。私たちは実に多くの困難な問題を抱えた時代に生きているのです。

世界中の病院は、肉体的な病気だけでなく、心の病を持った人々で満ちあふれています。人々は自分で問題を解決することができず、離婚裁判所は多忙を極めています。また企業の人事担当者や苦情処理委員会などに持ち込まれる相談件数もかなりの数に上っています。

ある会社の人事部で小さな苦情の処理を担当している人がいます。彼の机の上には、相談者の目につくように、「あなたは祈りましたか？」と書いた小さなプレートが置いてあります。彼自身は気がついていないようですが、この言葉は問題解決、苦しみの軽減、過ちの防止、また人の心に安らぎと喜びをもたらすという点において、ほかのいかなる方法にも勝るすぐれた勧告を与えているのです。

合衆国のある著名な判事が、「私たちは一市民として犯罪や違法行為を減らし、家庭や国家全体に平和と喜びをもたらすために何ができるでしょうか」という質問を受けたことがあります。彼はよくよく考えてからこう答えました。「昔ながらの家族の祈りを復活させることではないでしょうか。」

皆さんは、この教会では家族の祈りが決して古くさい時代遅れの習慣になっていないという事実に感謝しておられるでしょうか。この世の中に、家族が共に祈りを捧げている光景以上に美しいものはありません。「共に祈る家族はいつまでも離れることがない」という格言の中には、確かに深い意味があります。

主は私たちに家族の祈りをするように命じ、次のように言っておられます。「^{なんじ}汝らの妻子が祝福を受くるよう、たえずわが名によりて家族の祈りを御父に捧げよ。」(III ニーファイ 18：21)

ここで家族が共に祈りを捧げる典型的な末日聖徒の家庭をちょっとのぞいてみ





祈りは他のいかなる方法よりも、問題解決、苦しみの軽減、過ちの防
止、また人の心に安らぎと喜びをもたらす助けになるのです。



真理の道からそれていった自分自身
眞の家族に対して、この愛に満ちた
呼びかけをしていかなければなりません。

たいと思います。父親と母親、そして子供たちが皆ひざまずき、頭を垂れて、目を閉じています。そこには愛と一致と安らぎの精神が満ちあふれています。小さな子供が、父さんが正しい行ないをし、主の戒めに忠実であるようにと祈りました。かわいい息子のそのような祈りを聞いて、誇らしい気持ちを感じない父親がいるでしょうか。やさしい母親が、娘が靈感によって伴侶となる人を選び、神殿結婚にふさわしい備えができるようにと祈りました。最愛の母親が謙遜にそう祈るのを聞いて、その意に添いたいと思わないような娘がいるでしょうか。ふさわしい生活をし、いつか主の使いとして伝道に出ることができるようにとの家族の祈りを聞いた子供たちは、きつとよい宣教師になろうという強い望みを抱いた若人に成長していくことでしょう。

家族の祈り、個人の祈りをするときは、神への信頼と信仰が必要です。常に祈りなさいという勧告にあまりよく従っていない人は、今からすぐに祈りを始めるようにしてください。祈りは人間の弱さを示すものと考えている人がいるかもしれませんが。そのような人は、祈りを捧げるときにこそ人は最も強くなるということを心に銘記すべきです。

自発的な奉仕

奉仕についても、主の生涯の中にその模範を見ることができます。地上で人々に導きと教えを施しておられたときの主は、まさしくまばゆいばかりに愛の光を放っておられました。主は、手足の不自由な人々を癒し、目の不自由な人々を見えるようにし、耳の不自由な人に聞く力を与え、死んだ人を生き返らせました。

主が語られたたとえ話には力があります。よきサマリヤ人のたとえ話の中では隣人愛を説き、姦淫の罪を犯して捕らえ

られた女性に対しては慈悲を示し、それを通して、思いやりををもって人を理解することの大切さを教えられました。またタラントのたとえ話の中では、自分を高め、完成に向けて努力するように教えておられます。私たちは主の教えに従えば、永遠の家庭を築く責任をもっとよく果たせるようになるはずです。人を高めようとする人は、ほかの人にもたれかかるとはしません。また、主のみところを行なう人は、神のみ言葉に疑いを抱いたりしません。人に仕えようとする人には、不満を募らせてやけを起しているような時間はありません。

自発的な奉仕の模範は、現在の予言者エズラ・タフト・ベンソン大管長とそのご家族の中にも見いだすことができます。ベンソン大管長はご自分のお父さんが宣教師に召されたときのことを教会幹部に話されたことがあります。ベンソン大管長のお父さんは、妊娠中の奥さんと7人の子供、農場などすべてのものを後にして伝道に出たといひます。では、彼はそれで何かを失ったのでしょうか。ベンソン大管長のお母さんはよく子供たちを台所のテーブルの周りに集め、ゆらめくランプの光の中で夫からの手紙を読み聞かせました。あふれる涙をぬぐうために、手紙を読む声が何度も途切れしました。この結果はどのようなものだったのでしょうか。後に、子供たちは皆伝道に出ました。しかも皆自発的に出たのです。

道をそれた人々に手を差し伸べる

人生を送っていくうちに、道をそれていく人々がいます。永遠の生命を示す道路標識を無視して別の道を選び、結局は袋小路に迷い込んでしまう人もいます。無関心、不注意、利己心、罪、これらはすべて、人を永遠の生命への道からそれ

させてしまうものです。数ある家庭の中には、何かの理由で神に背き、気がついたときには悲しみと苦しみしか残されていなかったという状態に陥ってしまう人々がいます。

1985年の年末に、大管長会はキリストの群れから離れていった人々に関心を示し、「教会から遠のいている人々への呼びかけ」という特別なメッセージを出しました。その中にはこう書かれています。「私たちは教会員に対して、自分に罪を犯した人々を赦すように勧告します。また教会に活発でなくなり、ほかの人々に対して批判的になっている人々には、『立ち返りなさい。そして主が備えられたテーブルにつき、聖徒の交わりという甘く、心を満たしてくれる木の実を再び味わいなさい』と呼びかけるものです。

私たちは、戻りたいと望みながらもきまり悪さを感じてそうできないでいる人々が多くいると確信しています。しかし、そのような人々に申しあげたいと思います。私たちは両手を広げて皆さんを歓迎し、喜んでお助けしたいと願っているのです。」

私たちは、真理の道からそれていった自分自身の家族に対しても、愛をもってこの呼びかけをしていかなければなりません。愛はすべてを結ぶ絆であり、病を癒す乳香でもあります。たとえ彼らのために苦しみを受けることがあっても、愛することをやめてはいけません。主は私たちに、「汝相愛して共にこの世に生きよ」と命じておられます。(教義と聖約42:45)

ひざまずいて祈り、また進んで奉仕の業を行ない、道を踏みはずした人々に手を差し伸べてください。これらはすべて、私たちの家庭を天国とするために、神が準備してくださった設計図の重要なペー

ジを成しているものです。

確かな技術を身につけて、安易な方法は避け、主の設計図に従って家庭を築きあげようではありませんか。そうすれば、建物の出来具合もご覧になる主は、いにしへの時代に神殿を建てたソロモンに言われたと同じように、私たちにこう言ってくださることでしょう。「わたしはあなたが建てたこの宮を聖別して、わたしの名を永久にそこに置く。わたしの目と、わたしの心は常にそこにあるであろう。」(列王上9:3)かくして私たちは天の家と永遠の家族を持つことができるようになるのです。私たちは、すべての人がこの祝福にあずかることができるように心から祈っています。□

ホームティーチャーへの提案

強調点：ホームティーチングのときに以下の点を話し合うとよいでしょう。

1. 主は私たちに、苦難に打ち勝ち、一人一人に喜びをもたらす家庭を築けるように設計図を与えてくださった。
2. 祈りは問題を解決する助けとなり、苦しみを軽減し過ちを防ぐ。また、ほかの方法では得ることのできないすばらしい幸福をもたらす。
3. 奉仕はそれを行なう側と受ける側の双方に力をもたらす。

話し合いを進めるために

1. ひざまずき祈ること、また進んで奉仕の業を行なうこと、道を踏みはずした人々に手を差し伸べることにについて自分の意見を述べる。家族にも話してもらう。
2. このメッセージの中に、家族で読んだり、話し合ったりするとよい聖句や言葉はないだろうか。



家庭訪問メッセージ

「愛は寛容であり、 愛は情深い」

(Iコリント13:4)

目的：寛容と情け深さをもって愛を示す。

「愛は寛容であり、愛は情深い。」パウロは、愛を定義した言葉の中で、まず寛容と情け深さとをあげています。寛容な人は、自分が孤独感を感じたり、人に傷つけられたり、焦燥感にさいなまれたりするときでさえ愛を示していくことができます。

私たちは寛容と忍耐の精神を求められることがたびたびあります。世の中には忍耐強く病気の夫の世話をしたり、毎日子供たちをやさしく教え育てたり、年老いた両親の世話をしている女性が数多くいます。このような女性たちは、家族、友人、隣人、同僚たちをいつも大切にし親切にしている人々と同じで、みずから愛を実践しています。

エズラ・タフト・ベンソン大管長は次のように言われました。「親切な人とは他人に対して同情心のあるやさしい人のことです。他人の気持ちを思いやり、礼儀正しい行動をとり、よく人を助けます。また、ほかの人の弱点や欠点を許します。そして、すべてのもの、すなわち老若や身分の上下にかかわりなくだれにでも、さらには動物にもやさしくするのです。」(『神の性質』『聖徒の道』1987年1月号、pp. 53-54)

私たちは、毎日の生活の中で、人々に親切な行ないを示す機会を数多く与えられています。親切な行ないをすれば、自分だけでなく、周りの人々の生活にも永続的な変化をもたらすようになります。しかし、私たちは友人、隣人、教会に対して、親切な行ないを示すのを差し控えたり、家族に対して不寛容な態度をとってしまうことが数多くあります。私たちは毎日の生活の中で接する人々を最も大切に、愛を示さなければなりません。

救い主は、寛容と情け深さという点において完全な模範

を示してくださいました。救い主は、小さな子供たちに対しても情け深いお方でした。主は次のように言われたことがあります。「『幼な子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。止めてはならない。神の国はこのような者の国である。』……そして彼らを抱き、手をその上において祝福された。」(マルコ10:14, 16)

イエスは一人一人の人間に対してだけでなく、群衆に対しても霊的な慰めや物質的な慰めを与えられました。5千人の群衆に食物を与える一方で、小さな手が自分の衣のすそに触れるのを感じとり、その女性の病を癒されたこともあります。(ヨハネ6:5-14; マルコ5:25-34参照)

大きな苦しみを受け、十字架にかけられたときにさえも自分の母親に対してやさしい思いやりを示されました。「ごらんなさい。これはあなたの母です。」(ヨハネ19:27)

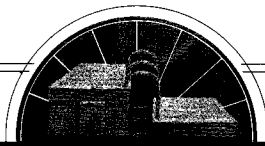
キリストの寛容と情け深さは、贖いの持つ癒しの力と相まって、私たちの生活を永遠に変える力を持っています。

そして、辛抱強く忍耐し、人々に愛を示すならば、私たちは自分自身の内にキリストの純粋な愛をはぐくみ、さらに主に似た者となることのできるのです。

訪問教師への提案

1. ささやかな親切が、自分自身の生活に変化をもたらした個人的な体験を話す。
2. 教義と聖約121:41-42を読み、これらの特質を生活の中でさらに発揮するためにはどうしたらよいか話し合う。

(『家庭の夕べアイデア集』pp. 82-88; 254-61参照)



——モルモン経が与えてくれるもの——

確かな証

アーデス・G・カップ

私は、17歳になったときに両親からもらった小さな聖典のセットを今でも持っています。自分がまだ若い女性だったころにモルモン経を読んだときのことを決して忘れることができません。それ以前にもモルモン経を読んでいたのですが、そのときは前に感じたことのない特別な気持ちを覚えました。多分、前よりもみたまをよく受けられる状態にあったか、熱心に、またよくお祈りをしながら読んだのではなかったかと思います。そのときは、モルモン経が真実の書物であることを自分自身で知りたいと強く思っていました。

信仰について書かれたアルマ32章を読み終えたときに、私は聖霊の証を感じました。そしてモルモン経が真実であることを知ったのです。私はその気持ちを全世界の人々に向かって話したいと思いました。そして、喜びの涙を流しながらそのページの上の余白に大きな赤い星印を書き、「5月31日午前7時半。まるで自分のために書かれた本のように強く感じる」とつけ加えました。それからまた別の余白にこう書きました。「確かな証を得た。モルモン経は真実の書物である。」「ひと月前から、もっとはっきりした確信を得たいと思って、毎週火曜日に祈り続けてきた。」

それ以来私は、導きや励ましを求めて何度もモルモン経を読み、信仰を強められましたが、ときどき、この本に対する自分の熱烈な

愛情は曾祖母から受け継いだものではないかと思うことがあります。曾祖母のスーザン・ケントがモルモン経を初めて手にしたのは、今から1世紀半も前の、彼女が16歳の時のことでした。スーザンはモルモン経を読んで証を得ました。その証は非常に強いもので、彼女はそのためならどんなに大きな犠牲でも払おうと思いました。

当時スーザンはある男性と婚約していましたが、彼はモルモン教会に入るような女性と結婚するつもりはないと言いました。しかしスーザンはためらうことなく、自分の良



心に従う道を選びました。それでも、彼女は非常に心を痛め、食事ものを通らない日々が幾日も続きました。そのため非常に衰弱して、昏睡状態に陥り、まるで死んでしまったかのようにになりました。そして、葬儀の準備が進められている最中に意識を取り戻し、「私、どのくらい寝ていたの」と聞いたそうです。それから徐々に健康を回復し、両親、妹と一緒にバプテスマを受けました。私は、曾祖母スーザン・ケントのモルモン経に対する証に永遠に感謝したいと思います。モルモン経への証は、祖母にとっても私にとってもかけがえのない大切なものです。

何年か前のこと、私は自分のワード部の監督から、若い会員たちが一定期間内にモルモン経をすべて読み通すように指導してほしいという依頼を受けました。そして、その年の内に、若人たちからモルモン経を読み終えたというすばらしい報告がなされてきました。彼らはモルモン経が失

意のときの心の支えになることを学びました。また、モルモン経を通して孤独感、不従順、怒り、不信仰などを克服できることも知ったのです。

モルモン経を読むと、救い主イエス・キリストへの知識と愛を深めていくことができます。また贖いについて知り、天父が福音の儀式と誓約を通して、あらゆる祝福にふさわしい者となるための道を備えておられることも知ることができるようになります。またモル

モン経は悔い改めと赦しについても教え、救い主の模範になら倣って私たちが互いに愛し合うにはどうしたらいいかについても教えています。また、モルモン経を読む人は救い主に似た者となり、いつの日か主のみもとに戻りたいと強く望むようになります。そして、現世の生涯の目的を悟り、信仰によって歩むことができるようになるのです。

モルモン経は私の信仰の錨であり、私はモルモン経と自分の最大の財産である証に対して神に感謝しています。すべての教会員がモルモン経を学び、その真実性について祈り、神から与えられた偉大な賜であるという証を得ることができるように心から願っています。そうすれば険しく、また危険に満ちた人生の坂道を登っていくときにも、きっと慰めを得ることができるでしょう。□

*アーデス・G・カップ姉妹は中央若い女性会長の責任にある。

私の人生を 変えた書物

ジョセフ・G・C・ジュン

私がモルモン経を調べるように宣教師から言われたのは16歳のときでした。それを読み、確かによい本であると思った私は、宣教師からのバプテスマの勧めを素直に受け入れることができました。私が教会に加わったのは強い証があったからではなく、モルモン経を読んだこと、そして教会に出席して嫌な気持ちを感じたり不安になったりしなかったからです。私にとって福音を受け入れるのは自然なことでした。

しかし、教会に入ってしまったから、私は「西洋」の教会の会員になるべきではないのだろうかと不安になり始めました。このころ私は、自分が末日聖徒であることを友達のだれにも教えていませんでした。そのうえ、自分の読んでいる本を人に知られないように、モルモン経に白いカバーをかけていました。

しかし、私はモルモン経が真実の書物であるかどうか自分自身で確かめてみようという決意しました。こうしてモルモン経を読み、祈っていると、ある日次の聖句に出会いました。

『これを口で言いあらわせる者もなく、筆で書きあらわせる者もなく、また人間の心で想像できぬほど偉大で驚嘆すべきものである。イエスが、私たちのために御父に祈って居りたもうのを聞いたとき、私たちの心に満ちた喜びは人間の想像ができないものである』と。

さて、イエスは御父に祈ってしまうと立ち上りたもうたが、群衆は喜びのあまり疲れてしまった。

しかし、イエスがかれらに言って起てと命じたもうと、かれらは直ちに地から起ち上った。ここに於てイエスは「汝らはその信仰の故にさいわいなり。見よ、今わが喜びは満ち溢れたり」とかれらに言って、涙を流したもうた。」(Ⅲ ニーフアイ17:17-21)

私はこの聖句を読むと声をあげて泣き出してしまい、主が私に対して抱いておられる偉大な愛で心は満たされました。私は心の中で叫びました。「主よ、あなたの生きておられることがわかりました。モルモン経が真実であるとわかりました。」

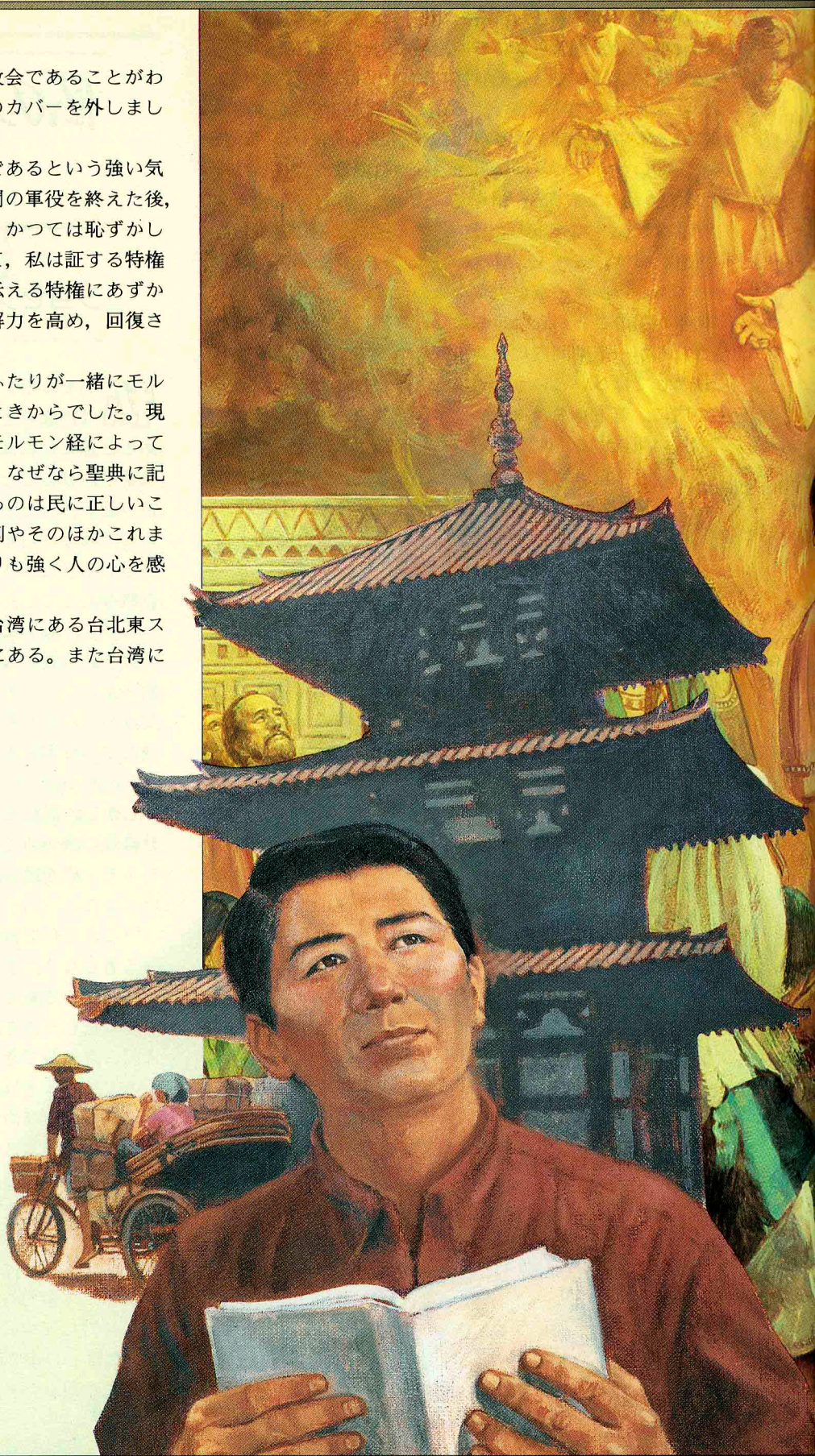
もはや私には、この教会が全世界の教会であることがわかったのです。私は喜んでモルモン経のカバーを外しました。

ほぼ同じころ、私は伝道に出るべきであるという強い気持ちも感じていました。海軍での2年間の軍役を終えた後、私は両親の許可を得て伝道に出ました。かつては恥ずかしさが先に立っていたモルモン経について、私は証する特権を得たのです。また、自国語で福音を伝える特権にあずかりました。伝道は福音に対する私の理解力を高め、回復された真理への証を深めてくれました。

私たち夫婦は神殿で結婚しました。ふたりが一緒にモルモン経を読み始めたのは交際していたときからでした。現在では3人の子供に恵まれています。モルモン経によって私たちの生活はすっかり変わりました。なぜなら聖典に記されているように「神の道を宣べ伝えるのは民に正しいことを行わせるのに非常に効^きが^くあって、剣やそのほかこれまでに用いたことのあるすべての方法よりも強く人の心を感化するから」です。(アルマ31:5) □

*ジョセフ・G・C・ジュン兄弟は、台湾にある台北東ステーク部の第二副ステーク部長の責任にある。また台湾における教会の翻訳課課長でもある。

— の聖句を読むと私は声
— をあげて泣き出してしまいました。主が私に対して抱いておられる偉大な愛で胸が満たされました。私は心の中で叫びました。「主よ、あなたの生きておられることがわかりました。モルモン経が真実であるとわかりました。」





「助けて……」 そして子供たちをお守りください。」

メット・ハンセン

1968年の10月、雨のそぼ降る冷たい夕暮れどきのことでした。私はデンマークのコペンハーゲンにある仕事場から、自転車に乗って帰路についていました。当時、夫は出張でカナダに行っており、私は10歳の息子と7歳の娘の3人だけで暮らしていました。

帰り道の途中、私は道路端の自転車道から、4車線もある交通量の多い車道を渡らなければなりません。安全のために私は自転車を降り、押しながら交差点を渡るのが常でした。ところがこの日に限って、私は車道の途中まで進み、車をやりすごすために中央で立ち止まっていたのです。私の右手には小型車が止まっていて、道路を渡るように合図をしていました。小型車の脇には大きなトラックが止まっていて、こちらの運転手もやはり合図をしていたので、私はそのまま進んでいきました。そしてちょうどトラックの前を横切ろうとした瞬間、自転車道を猛スピードで私の方に向かってくるフォルクスワーゲンに気づきました。もちろんこれは違法です。しかし私は前にも後にも逃げる余裕がありませんでした。

その瞬間、子供たちのこと、夫のこと、仕事のことで、すでに父に先立たれたひとり暮らしの母のことなどが、閃光のように胸の中をよぎりました。そして私はかつてないほど熱烈に祈りました。「どうか主よ、助けてください。」

車は自転車にぶつかり、その拍子に自転車のハンドルが私の脇腹を激しく打ちました。私は路面に力なく横たわったま

ま、痛みのためにほとんど呼吸ができないう状態でした。しかし意識は失っていませんでした。頭の向きを変えると、フォルクスワーゲンのタイヤが目と鼻の先にありました。自転車を見ると、衝突で何メートルか先へ放り出されていて、半分にはし折られていました。

奇跡が起きたことが私にはわかりました。タイヤはぎりぎりのところまで迫っていましたが、私の頭はひかれずに済みました。目に見えない手がちょうどそこで車を押しとどめてくれたように感じました。私の眼から涙があふれ、天父が命を守ってくださったことに感謝しました。

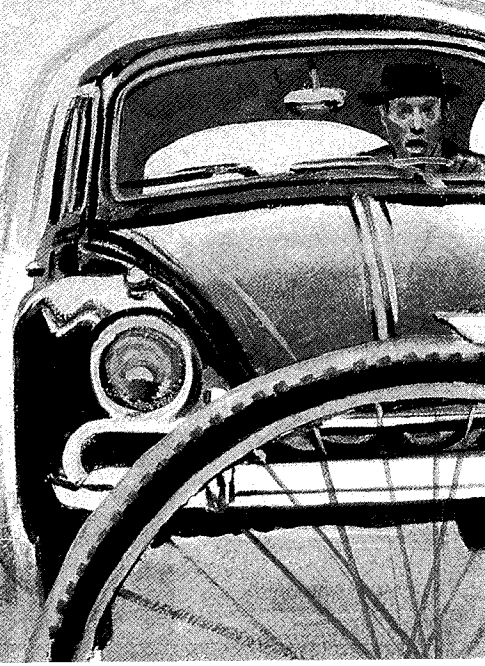
私は道路の上に横になったまま救急車を待ちました。私が迎えに行かなければ子供たちは何て思うかしら。託児所が閉まる前に病院の治療室から電話を入れられるかしら。子供の迎えをお願いできる人がいるかしら。毎日仕事に追われていて近所に知り合いはほとんどいません。ましてやワード部の会員が近所にいるわけでもありませんでした。

あわただしい救急治療室の中では、レントゲンを撮るまで職員は私に電話をかけさせてくれませんでした。看護婦も忙しく立ち働いていて、電話を頼むことはできません。4時間ほどしてから警察官がやって来て、事故の調査書を書いてきました。

私を助けるために働いてくれる大勢の人々に囲まれ、病院の中でこれほど長い5時間を過ごしたことはありませんでした。それでも私が今本当に必要としてい

る助けを与えることができるのは、天父だけであると思いました。私は人生で初めて、自分の心を占める唯一の関心事、つまり取り残されたふたりの幼い子供たちのために絶え間なく祈り続けていました。

「どうか子供たちに私が無事であることを知らせてください。子供たちがあわてまどうことのないように心に平安を与え、また忍耐力を持たせてください。そして、何をすればいいのか教えてあげてください。」私は聖霊が共にいてくださるのを感じました。そして心の中に全身を包むような平安が広がるのを感じました。この同じ気持ちが子供たちにも注がれるように私は祈りました。





トラックの前を横切ろう
とした瞬間、猛スピード
でこちらに向かってくる車
にぶつきました。しかし私に
は、前にも後にも逃げる余裕
はありませんでした。

こうして医師は最後に、肋骨に何力所^{ちつき}かひどい打撲傷を受けているだけでほかはまったく何ともないと言い、私を家に帰してくれました。ふたりの警察官が私を家まで車で送ってくれることになり、アパートにはその晩10時15分に着きました。

暗い中から幼いふたりの子供が疲れた様子で手をつなぎながらパトロールカーの方に近づいてきました。「お母さん、どこに行っていたの。何があったの。どうしてこんなに遅くなっちゃったの。どうして警察の人がお母さんを車に乗せてくれたの。」無事にアパートの中に入ると、子供たちがさかんに質問するのでした。

私は事情を説明し、こう尋ねました。「あなたたちはどうやって帰ってきたの。」

息子の話はこうでした。「どうしてお母さんが迎えに来てくれないのかわからなかったけれど、仕事が遅くなるんだと思ったんだ。だから歩いて帰ってきたんだよ。でも外は暗くなるし、鍵がなかったから中にも入れなかったんだ。」

どうしていいのかわからなかったんだけど、そのとき急に祈ろうと思ったの。だからふたりでドアマットのところにひざまずいて、ぼくが祈ったんだ。お母さんが教えてくれたように、お祈りの後しばらく黙って座っていたんだ。そうしたらぼくにすごいことが起きたんだよ。

大きな温かい手がぼくの頭の上に置かれたような気がして、それからやさしい声が聞こえてきて、こう言ったんだ。『お母さんは大丈夫、周りの人が助けてくれているから。ほんのしばらくすれば帰ってくるよ。外はすっかり暗くなるけれど、あわてないことだ。妹を連れていってアパートの近くで静かに遊んでいなさい。そうすればお母さんが帰ってくるまでにすぐ時間がたつから。』

ぼくは顔をあげてだれが話したのか見たんだけど、だれもいなかった。でも安心できたよ。」

あれから何年かたち、息子が大人になる過程でときどき悩む姿を私は見てきました。困難に遭うとき、神の存在を疑う方がたやすいことがときとしてあります。

息子が悩むたびに私はこう尋ねたもの

です。「お母さんが事故に遭った夜の出来事を忘れてしまったの。」

この言葉を聞くと、息子は晴々とした顔をし、よくこう言いました。「お母さん、そうだったね。あの出来事を否定することは決してできないよ。」

私は息子がこのような体験ができたことに感謝しています。同時に、子供たちに祈ることを教え、詩篇の次の聖句に心

を留めておくことがどれほど大切であるかを学びました。「耳を植えた者は聞くことをしないだろうか、目を造った者は見ることをしないだろうか。」(詩篇94：9)

□

*メット・ハンセン姉妹は経理の仕事をしている。また教会ではソルトレーク・ハンタースターキ部第31ワード部に所属する音楽指揮者でもある。

「**大**きな温かい手がぼくの頭の上に置かれたような気がして、やさしい声が聞こえてきたんだ。ぼくは顔をあげてだれが話したのか見たんだけど、だれもいなかった。」



ゆる 赦しについて 子供に教える

両親へのガイド

人を赦すことの必要性を理解できないでいる大人がたくさんいます。したがって多くの子供たちが赦しについて理解できないとしても不思議なことではありません。

人を赦すことができないと、その人自身の生活が、怒りや敵意などによって台無しになってしまう場合もあります。過去に負った傷が積もり積もって悪性の病気になる、かつては親しい間柄だった人との仲が、修復できない状態にまで損なわれてしまうこともあります。

ささいな感情の行き違いやいさかきのもとで、互いに大人の兄弟同士が相手を赦すことをせずに、何年も口をきかないでいるような家庭もあるようです。

夫婦の間でもそのような気持ちを募るままにしておくと、最後は離婚によって家庭が崩壊してしまう危険性もあります。現にそのような悲劇の実例が数多くあります。そして、真の原因を探ると、相手を赦せなかったという点に帰着することが非常に多いのです。

子供には早いうちから赦しの原則を教える必要があります。それには、模範になる行ないと言葉のふたつを通して教えるのが最良の策です。自分に悪いことをした人を赦しなさいと、口で言うだけではだめです。赦しを与えることによって家庭の中に愛と一致の精神が保たれることを、実際の行動で示してください。

過去に戻ることはできない

赦しについて教えるうえで最も良い方法は、みずからその原則を実践することです。伴侶とよく話し合ったうえで、過去の間違いは互いに忘れ、赦し合うよう

に努力してください。過去ではなく、未来に目を向けるのです。すでに自分がしてしまったことについては、どれほど強く願ったとしても、過去に戻ってその行ないを変えることはできません。古い傷にいつまでもこだわっていると、大切な絆を損なってしまうだけです。それは決して前向きな生き方とは言えません。

子供に赦しの原則を教える前に、両親は以下の質問に正直に答えてみるとよいでしょう。

心を開いて子供と話し合っていますか。

子供たちはあなたに関心を示していますか。

子供たちは自分の問題についてあなたに相談してきますか。

子供たちはあなたに、社交活動、友人、自分の感情や希望などについて話してくれますか。

あなたは子供たちの過ちを心から赦していますか。ことあるごとにそれをむし返すようなことをしていませんか。

鍵になるのは最後の質問です。子供の間違いを忘れ、赦すことができない親は、赦しの原則について自分自身が問題を抱えていると言われても仕方ありません。その問題を解決しなければ、親子のコミュニケーションはうまくいかず、親として子供に赦しの原則を説くことはできません。

子供の不安と心配

子供は一般に、寛容な親に対しては自分の悩みや心配事を打ち明けてくるものです。しかし厳しくとがめられれば、自分の問題を打ち明ける気もなくなってしまいますし、愛と相互理解の精神に満ち

た関係を築いていくこともほとんど望めません。

実践による模範も確かに大切ですが、赦しの精神については、言葉で教えないといけない部分もあります。子供が友人、兄弟などと仲たがいをしたときは、相手の過ちを赦さなければ親しい関係も壊れてしまうということを教える絶好の機会です。

本当に事実なのか、あるいは単なる思い込みによるのかは別にしても、子供がだれかに嫌なことをされたと言って不機嫌な様子をしているときは、どのような気持ちでいるかを聞いてあげてください。そして人に対して怒りや敵意を向けると、相手よりも自分自身が大きな痛手を受けることを説明してください。たとえ子供であっても、そのような気持ちを持てば自分自身を傷つけてしまうのです。また争いは友情も壊してしまいます。ひとたび壊れてしまった関係を元に戻すには、お互いが無条件に赦し合うしかありません。

子供が怒りを鎮め、相手と仲直りをしたら、もう一度どのような気持ちがあるか質問してください。そして、赦しは双方に良い気持ちを感じさせてくれることを説明してください。

予言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示の中で、主は次のように言われました。「この故にわれ汝らに告ぐ、汝ら互いに赦し合うべきなり。そは、人その兄弟の過ちを赦さざれば、その人主の前に罪に値する故にして、そは更に大いなる罪なお彼に在ればなり。」(教義と聖約64：9)

赦しに関する現代のたとえ話

聖書、教義と聖約、モルモン経には赦しの大切さを教えるたくさんの実例が書かれていますが、現代にも赦しの原則をわかりやすく教えてくれるたとえ話があります。

1985年11月号の「聖徒の道」に載った『怒りの石』は、子供たちに赦しの原則を理解させるのに役立つおもしろい話です。

この話に登場するマルコム・テントという人物は、だれかに嫌なことをされるたびにポケットに石を入れるようになりました。マルコムはその石を見るたびにそれらの出来事を思い出し、相手に対する怒りの気持ちを忘れまいと決心しました。

しかし間もなく石はポケットに入りなくなり、家中にあふれるようになってしまいました。マルコムの人生は、彼自身の不寛容さを象徴する石で埋め尽くされてしまったのです。

スペンサー・W・キンボール大管長は次のように言っています。「不当に取り扱われ、気持ちを傷つけられるようなことがあっても、赦したならばそのことを完全に心から消し去らなければならない。

赦し、忘れることはいつの時代にも通じる勧告である。」(『赦しの力』『聖徒の道』1978年2月号、p.74)

自分自身が犯した過ちについても、自分を赦し、人からの赦しを心から受け入れることが大切です。いつまでも過去の間違いにこだわっていると、それが自分の行動に影響を及ぼし、肉体的にも精神的にも病んでしまうことになります。

極端な場合には、自責の念に耐えられなくなり、自らの命を絶とうとする人さえ出てきます。すでに悔い改めをした過ちについて、自分自身を赦せないと考えるようになると、まったく身動きができない状態に陥ってしまいます。





自分自身を赦すのは、幸福で健康な生活を送るうえで非常に大切なことです。これは子供や十代の若人にとっても、非常に重要なことです。若人は自分の過去の行動を大局的に見ることができなくなってしまうことがよくあります。自分の過去の行動は決して変えることができないとか、幸福な人生はこれで永遠に望めなくなってしまったなどと考えるのです。もし親が子供と率直に話し合い、心を通わせ、子供の問題に理解を示すなら、このような恐れをぬぐい去れるよう大きな助けを与えることができます。最も有効な手段は愛と理解です。

悔い改めの過程を教える

過去の間違いについて自分を赦すように教えるにはどうしたらよいのでしょうか。まず最初のステップは悔い改めの過程を教えることです。それは、主に告白し（必要であれば定められた教会の指導者にも告白する）、また自分が傷つけてしまった人に償いをし、罪を犯す原因となった習慣や影響力を排除することです。真の悔い改めをする人は、主の次のみ言葉の中に慰めを得ることができます。「まことにわれはわが聖徒らの悔い改むる毎にかれらのわれに対する罪を赦す。」（モーサヤ26：30）

教義と聖約58章42節にはこう書かれています。「見よ、およそすでにその罪を悔い改めたる者は赦され、主なるわれもはやこれを忘るべし。」

これこそ末日聖徒が従うべき模範であり、老若を問わず、幸福と健康に恵まれた豊かな人生を過ごすために必ず理解しなければならないメッセージなのです。

□

質 疑 応 答

本誌の解答は問題解決の一助として与えられたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

教会の責任を解任されると、ときとして落ち込んだり、とまどいを覚えたり、傷ついたり、怒りさえ覚える場合があるようです。こうした状況に建設的な態度で対処するにはどのようにすればよいでしょうか。



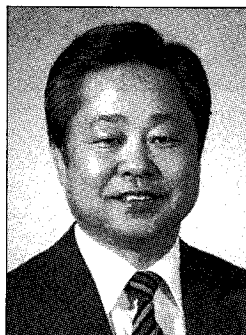
ボー・ベナルンド

(スウェーデン・ストックホルム神殿結び固め執行者、およびスウェーデン広報ディレクター。スウェーデン、バスターハニング在住)

どのような責任であっても、その召しを引き受けるなら数々の祝福を受け、生活にさらに大きな意義を見出すことができます。全力を尽くして召しを遂行するときに、私たちは自分の仕える人々と共に働く人々、そして管理者を愛することができるようになります。こうして召しは生活の中に生きがいと喜びをもたらしてくれます。解任されて悲しく思ったり、ときには失望感さえ味わうことがあったとしても不思議ではありません。私の考えでは、むしろこれは自然なことです。それどころかまったく悲しみを感じないとすれば、召しに対する感謝の念が薄かったのではないかとさえ言えると思います。私個人としては、召しを解任されて本当にうれしいと思ったことは一度もありません。これはひとえに自分が受けた召しをすべて心から愛していたからにほかなりません。

では、問題となる以前の段階でこのような気持ちを処理しておくには、どのようにすればよいでしょうか。どのようにすれば、心から打ち込んでいた召しの解任を適切にまた素直に受け入れられるのでしょうか。解任された場合、以下の点について落ち着いて祈りの気持ちをもって考えるとよいでしょう。

1. 「私は神によって召されたことを知っている。それであるから、この解任も神が与えてくださったものである。」
2. 「この召しを受けて働くのは特権であった。別の人々が今この同じ特権にあずかっていることを思うと、私もうれしい。」
3. 「主が望んでおられる場所で働くことこそ、私の願いだ。」
4. 「この解任によって、妻（または夫）に思いやりを示せる時間が増えるだろう。だからこれまで以上に伴侶を幸せにするよう努力しよう。孫たちにももっとよくしてやろう。これまで以上に献身的なホームティーチャー（または訪問教師）になろう。」
5. 「主とその僕が私をどのような責任に召しても、これからは喜んでそれを受け入れよう。主が望んでおられる場所で働くならば、どこにあってでも幸せになれるのだから。」



ハン・イン・サン

(韓国、ソウル在住)

教会での経験が浅いためにしっかりとした土台のできていない人々は、解任を組織上の降格か社会的地位の喪失のように考えてしまうことがよくあります。しかし、限られた人数の教会幹部を除けば、世界中の教会員は絶えず新たな召しを受け、同時に「解任という召し」も受けています。私自身は、教会の召しを解任されるということは実際には別の意味での召しを受けることなのだと考えてい

ます。

解任のための適切な面接によって、解任される人がそのような考え方を持つように導くことができるでしょう。主の教会では、解任は別の分野で主に仕えるためのひとつの召しなのです。指導者は面接の中でこのように説明することができます。

聖餐会の席で支持の挙手を取ったり感謝の解任をする際に初めて本人に自分の解任を知らせる、というようなことは決して行なってはなりません。あるいは集会の直前になって会員を呼び止め、その集会で解任しなければならないことを告げるといったようなことも指導者は決して行なってはなりません。「教会指導総合手引き〔1986年版〕」(PBCT0805JA)にある明快な指示にきちんと従うならば、教会の指導者は解任に伴いがちな否定的な感情が起きるのを避けることができます。



フリオ・ダビラ

(地区代表。コロンビア、ボゴタ在住)

召しと解任によって、教会の指導者に対する信仰と従順が試されます。私は、支部長の召しを解任してほしいという思いに駆られていた時期のことを思い出します。地方部長の家に話をしに行く途中、私は自分あての郵便物を受け取るために郵便局へ立ち寄りました。郵便物の中には「リアホナ」(訳注——日本の「聖徒の道」にあたる国際機関誌)の最新号が届いていました。封を開けてざっと目

を通すと、デビッド・O・マッケイ大管長の短い話に目がとまりました。マッケイ大管長は、教会の初期の指導者や宣教師が福音のためにどれほど困難に遭わなければならないかをお話の中で述べていました。大管長の言葉が私の胸を打ちました。私は自分の決断が愚かであったことに思い至りました。地方部長との約束を守って彼の家には行きましたが、私は自分が訪問した本来の理由については一言も触れませんでした。その代わり、その機会を利用して、自分の召しに関して様々な助言を受けました。

後年、当時地方部長だったその兄弟が私にこう尋ねました。「ダビラ兄弟、もう随分前のことだが、ボゴタで私の家に来たとき、本当に話したかったことは何だったのかね。」来訪の目的は解任の要請であったことを私は告げました。すると愛に満ちた笑みを浮かべて、その兄弟は次のように言いました。「君が話したいと思っていたことは、察しがついていましたよ。電話を受けて、君が私の家に着くまでの間、途中で君の気持ちが変わる何かが起きるように祈っていたのさ。」

私はこの経験のお陰で、指導者が靈感を受けることについての証を強めました。また、指導者に謙遜に従わなければならないこと、指導者から与えられる召しと解任は進んで受け入れなければならないことを証できます。

自分の義務をよく理解していなかったか、あるいは怠っていたために、あまりよく責任を果たせなかったと感じている会員は、ときとして腹立たしい気持ちに陥る場合があります。会員が召しを果たすのに困難を感じている場合は、指導者は励ましや援助を与えることができます。また、ときにはいさめる必要があるかもしれません。しかしその後には一層の愛を示すようにします。(教義と聖約121:43参照)

解任されて苦々しい気持ちを感じないようにするには、自らの霊性の基礎をしっかりと築いておかねばなりません。主に近づくときに、すべての召しは「人々に不死不滅と永遠の生命とをもたらす」み業(モーセ1:39)に、キリストと共に携わるための招きであることがわかります。さらに、人々を召したり解任したりする指導者は、主に代わって働いているという信仰を得ることができるでしょう。□



現代の英雄の多くは、頑健な肉体と富を持ち、性的な魅力を兼ね備えた映画スターなどです。しかし、私たちの人生の中で何が最も価値あることか、もっと明確にする必要があります。



真の偉大さ

十二使徒定員会会長代理
ハワード・W・ハンター

多くの末日聖徒は、人生がもたらす様々な素晴らしい機会を享受し、幸福な生活を送っています。しかし私は、自分が達し得る最高の状態に至っていないと考えて、幸福な気持ちを味わえないでいる人々のことを憂慮しています。特に心配しているのは、正しい生活をしているにもかかわらず、社会や教会において、ほかの人々が成し遂げていることを自分は達成していないという理由で、自分を落伍者だと考えている人々のことです。

人々はだれでもこの現世において何か偉大なことを達成したいと望んでいます。ではどうして自分自身に失意を感じる人々がいるのでしょうか。ある人々が語っているように、私たちには神のように偉大になりたいという強い望みがあります。ところが、この世的な意味での偉大さに目をくらまされて、本当に大切な事柄を見失ってしまうのです。

真の偉大さとは何でしょうか。人々を偉大たらしめるのは何なのでしょうか。

この世的な意味での英雄

私たちは今、俗的な成功だけをあがめ、この世的な意味での英雄しか作り出さない世界にいます。18歳から24歳までの若人を対象にした最近のある調査では、若人が考えている現代の英雄とは、スポーツ選手や映画スターなど、頑健な肉体と富を持ち、性的な魅力も兼ね備えた人物であることが明らかになっています。世間的な意味での英雄は、テレビ、雑誌など至る所で見ることができます。記録を更新したスポーツ選手、素晴らしい文明の利器を発明した科学者、新しい方法で人々の命を救う医師などについてのニュースが毎日のように報じられています。素晴らしい才能に恵まれた音楽家、画家、建築家もいれば、容貌に恵まれ、最新流行の服を身にまとい、いかにも「成功」した人物らしく振る舞っている人々もいます。

私たちは偉大さということについて、この世的な意味の定義に慣らされているために、他人と自分の比較に陥って

しまうことがよくあります。また、無意味な比較をして自分には力がないとか、成功していないなどと思い込んでしまう場合もよくあります。そのように考え出すと、自分の失敗にいつまでもこだわったり、本当の偉大さとは何かを忘れてしまったりします。

ジョセフ・F・スミス大管長は、1905年に真の偉大さについて実に意義深い言葉^{たぐい}を述べています。「私たちが、特別な、傑出した、類まれな、と呼ぶところのものは、確かに歴史を作ってきたかもしれない。しかし、それらが真の人生を作ってきたわけではなかった。結局のところ、神が全人類に共通して授けた務めを着実に果たした人が、真に偉大な人なのである。父親として、また母親として成功する方が、将軍や政治家として成功するよりも偉大なのである。」（「ジュービニル・インストラクター」1905年12月15日号、p.752）

にわか仕込みの偉大さ

この言葉を読んだ人々は、「神が全人類に共通して授けた務め」とは一体何かと考えることでしょう。その中には、良い父親、母親、息子、娘、また良い学生、隣人になるためにしなければならないことが含まれます。

95歳で亡くなった偉大なチェロ奏者パブロ・カザルスは、死亡したその日の朝まで音階の練習をしていたといいます。にわか仕込みの偉大さなどというものはあり得ないのです。偉大な人物となるためには長い時間が必要であり、ときには挫折を味わうこともあります。そして、日々の生活の中で平凡な事柄についてたゆまず努力を積み重ねていかなければなりません。人々のために、また主のために命を捨てるということは、ささやかな奉仕と犠牲の積み重ねの上に成り立つことです。その中には、天父と福音に対する知識を得ることや、ほかの人々に信仰を伝え、神の王国へ導くことも含まれます。普通このようなことは、人々の注意を引くこともなければ、賛辞を浴びることもありません。

日々クリスチャンとしての道を歩んだ人物、ジョセフ・スミス

ジョセフ・スミスは、将軍、市長、設計士、編集者、大統領候補者としてはあまりよく知られていません。私たちは回復の予言者、神への愛に殉じた人、神のみ業を押し進めた人として、ジョセフ・スミスを覚えています。そして、予言者ジョセフ・スミスは、日々クリスチャンとしての道を歩み続けた人でもありました。彼は平凡な事柄、人々のための不断の奉仕に心を配っていました。ミズーリ州へ向かったシオンの陣営の中に、ライマン・O・リトルフィー

ルドという13歳の少年がいました。彼は後に、予言者の生涯の中ではあまり目立つものではありませんが、大切な意味を持つ、奉仕の行ないについて記録を残しています。

「その旅はだれにとっても困難なものでした。肉体的な苦しみに加え、私たちが救いに行こうとしていた兄弟たちが受けていた迫害のことを聞いて、私は一日中気が滅入っていました。陣営が出発の用意をしていたとき、私は疲れきって道ばたでじっと考え込んでいました。予言者は陣営の中でも一番忙しい人でしたが、私を見るとほかの仕事で忙しいにもかかわらず、手を休めて慰めの言葉をかけてく

予言者ジョセフ・スミスは、最も忙しい人でしたが、彼は小さな少年に慰めの言葉をかけるための時間を惜しみはしませんでした。



れました。彼は私の頭に手を置くと、『ほかに休める場所はないのかい。それなら、一緒に探してあげよう』と言いました。それから長い年月が過ぎ、様々な苦勞もありましたが、そのときのことは今でも忘れることができません。』（ジョージ・Q・キャンノンの引用「予言者ジョセフ・スミスの生涯」p.344）

あるとき、アダムス郡の保安官トーマス・キングと幾人かの人々が、予言者を逮捕してミズーリ州のボグス知事の特使に引き渡すという任務を与えられました。ところがキングはひどい病気にかかってしまいました。ジョセフ・

スミスは彼をノーブーの自宅に運び、4日にわたり兄弟同様に親身に看病しました。（「予言者ジョセフ・スミスの生涯」p.372参照）予言者はこのようにして、いつも人目につかない親切な行ないを人々に示していました。彼にとっては、それは大切な意味を持つ奉仕の行ないだったのです。

ジョージ・Q・キャンノン長老は、予言者がノーブーに構えた店の開店当日のことを、次のように記録しています。

「予言者自身、商売や営利の追求をためらうようなことはありませんでした。彼が説いていた福音は霊的な救いだけでなく、物質的な救いをももたらすはずのものでした。

人 目につくことはなくても、本当の偉大さを身につけた英雄がたくさんいると私は信じています。



彼は自分の体を使って熱心に働きましたが、それは決して自分自身の利益のためではありませんでした。」(「予言者ジョセフ・スミスの生涯」p. 385)

ある手紙の中で予言者は次のように書いています。

「店の中はあふれるばかりの人でした。私は砂糖やシロップ、干しぶどうなどがなくてクリスマスや新年の料理の準備ができない人々に喜んでもらおうと、彼らに商品を渡すために一日中カウンターの中に立ち続けで、どんな店員にも負けないくらいきばきと働きました。それはもちろん私自身のためでもありました。なぜそのようなことをするかというと、私はいつか主のみもとに救われたいと望んでいましたし、聖徒たちのために働き、すべての人の僕として仕えることが好きだったからです。」(「予言者ジョセフ・スミスの生涯」p. 386)

長老定員会の書記や扶助協会の教師としてよい働きをすること、また隣人を愛したり、友人の言葉に耳を傾けるのも偉大なことです。人生の中でよく経験する苦しみや挫折に全力で立ち向かうこと、また人々の成長と幸福、自分自身の永遠の救いのために、困難に負けずに頑張り通すこと、これらはすべて真の偉大さを示しています。

人目につかない英雄

私は、人目を引くことはなくても本当の偉大さを身につけた英雄がたくさんいると信じています。それは、だれかがしなければならぬことを人の目につかないところで黙々と行なっている人々であり、いつでも自分が必要とされているところで喜んで働く人です。また休む暇なく病気の子供の看病をする母親、自発的に献血したり、年老いた人々のために奉仕をする人も、真に偉大な人といえることができます。神権者としての責任、教会の召しを忠実に果たしている人、また正直さとやさしさを忘れず日々の義務を勤勉に果たしている人、主の僕として働き、主の羊の群れの牧者として働いている人々もその中に加えることができます。

しかし、私は数々の世の偉大な業績を無視しているわけではありません。それらのものは私たちに多くのすばらしい機会を与え、生活の中に美しさや便利さを添えてくれました。私が言いたいのは、人生で最も価値あるものにもつ

と強く心を向けなければならないということです。救い主はこう言われました。「そこで、あなたがたのうちでいちばん偉い者は、仕える人でなければならない。」(マタイ23: 11)

人は偉大な者となることができる

私たちは、自分の生活を評価するときに、何を達成したかということだけでなく、どのような状況で働いたかという点にも目を向ける必要があります。人は皆それぞれに異なる存在です。人生の出発点も違いますし、才能や身につけている技術も違います。克服していかなければならない問題や状況もそれぞれ違います。

しかし、福音の網の中にいる人はすべて、天父が望んでおられる偉大さを身につけていくことができるのではないのでしょうか。この世的な標準で言う偉大さと比較しても、私たちがしている一見平凡な事柄の方が人々の生活にすばらしい影響を及ぼしているのです。たとえ目立たなくても、結果的に人々にすばらしい影響をもたらす機会は数限りなくあります。

大切なのは、目立つことのない地道な行ないです。私たちの心に強く残っているのは、パリサイ人が入れたたくさんのお金ではなく、やもめが入れたレプタです。ペリシテ人の恐るべき力ではなく、ダビデの勇氣と信仰です。

たとえ目立たなくても、確かな方法で主のみ業を推し進めている人々、また地の塩となり、世の人々の力となり、国の支えとなっている人々を心から賞賛したいと思います。最後まで耐え忍び、イエスを雄々しく証するなら、真の偉大さを身につけ、いつの日か天父のみもとに戻るできるようになります。

ジョセフ・F・スミス大管長は、「真の人生を、作りものの人生と交換してしまうことのないようにしようではないか」と言っています。(「ジュビニル・インストラクター」p. 753)

世の人々にどう思われようとも、神ご自身が重要かつ必要と定められたことを行なうなら、いつか真の偉大さを^{そと}見えられるようになることを心に留めておこうではありませんか。□

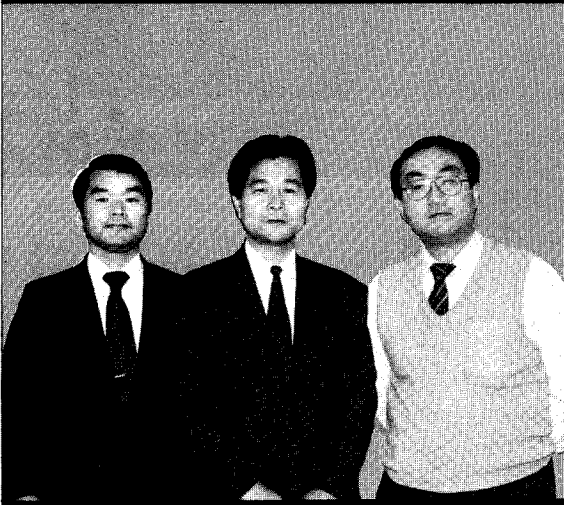
各地のたより

再組織されたステーキ部長会・地方部長会

福知山地方部・札幌ステーキ部・名古屋ステーキ部

福知山地方部

昨年11月8日（日）モーリス・R・ステレット伝道部長管理の下に開催された地方部大会で、5年の間神戸伝道部副伝道部長、また福知山地方部長としてその召しを果たしてこられた松崎信次兄弟が解任され、玉屋晃生兄弟（前第二副地方部長）が新たに地方部長に召された。また、第一副地方部長には寛耕治兄弟、第二副地方部長には新谷国昭兄弟が召された。（写真：左から新谷第二副地方部長、玉屋地方部長、寛第一副地方部長）



札幌ステーキ部

昨年11月15日（日）十二使徒定員会会員のニール・A・マックスウェル長老管理の下に開催されたステーキ部大会で、札幌ステーキ部設立以来10年間にわたりステーキ部長の責任を果たしてこられた潟沼誠二兄弟が解任され、西田孝雄兄弟（前ステーキ部幹部書記）が新たにステーキ部長に召された。また、第一副ステーキ部長には大田原勝幸兄弟が、第二副ステーキ部長には中島克己兄弟が召された。（写真：左から、大田原第一副ステーキ部長、西田ステーキ部長、中島第二副ステーキ部長）



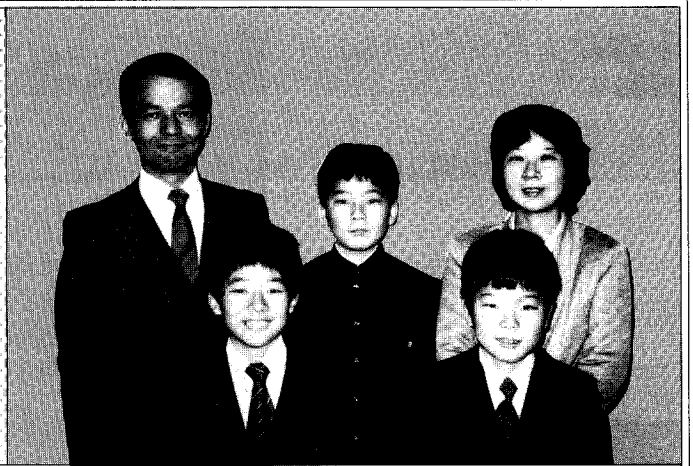
名古屋ステーキ部

昨年11月22日（日）十二使徒定員会会員のニール・A・マックスウェル長老管理の下に開催されたステーキ部大会で、名古屋ステーキ部設立以来約10年にわたりステーキ部長の責任を果たしてこられた土田 勝兄弟が解任され、石井哲志兄弟（前ステーキ部高等評議員）が新たにステーキ部長に召された。また、第一副ステーキ部長には山口貴幸兄弟が、第二副ステーキ部長には寛 八郎兄弟が召された。（写真：左から山口第一副ステーキ部長、石井ステーキ部長、寛第二副ステーキ部長）



信仰の試しと祈り

名古屋ステーキ部長
石井 哲志



●石井ご家族

私は昭和34年3月7日に宮島の見える瀬戸内海で、当時の広島支部長の西原良男兄弟（現東京神殿副神殿長）からバプテスマを受けました。以後信仰深い母に導かれて「モルモン2世」として育ち、今日に至っています。

バプテスマを受けてから今日までの約29年の間に、私の信仰の試しとなった忘れられない出来事が3度あります。

1度目は私が宣教師に聖任された時のことです。18年前の1月、私は高校3年生で大学受験の準備をしていました。そのころ広島で地方部大会があり、私はメルケゼデク神権の長老の職に聖任されました。その大会で、当時の岡崎伝道部長から、大阪で開かれる万国博覧会のモルモンパビリオンで働く宣教師が必要であることを知らされました。しかし、長老に聖任されたばかりの私は、大学に進学するつもりでしたので他人事として受け取っていました。

自宅に戻ると、母に伝道部長の勧告にこたえるよう勧められました。私は大変戸惑いましたが、断食と祈りによって自分で決断を下すことにしました。私は幼いころ腎臓病にかかり、小学校への入学が同年の人たちよりも1学年遅れていましたので、伝道に行けばさらに遅れることになります。祈りつつも悩みました。しかし2日目の朝、心にとっても平安な気持ちを感じ、あせる気持ちはなくなりました。そして伝道に出る決心をしました。1970年4月から、日本中央伝道部の宣教師として働いた2年間は本当に祝福されたものでした。

伝道を終え、東京で牛乳配達をしなが

ら大学進学準備をしていた私は、仕事、勉強、教会の責任と、忙しくはあっても充実した日々を送っていました。しかし、私はなぜかとてもむなしく、満たされない思いでいっぱいでした。「私がこうして毎日、一生懸命あらゆることにベストを尽くしても、心が満たされないのはどうしてですか、神様教えてください。」何度もそう祈りました。そんな毎日の中、ある日祝福師の祝福を受けることを友人から勧められました。熟慮した末、私は祝福を受けることにしました。渡部正雄兄弟（現台湾台北神殿第二副神殿長）から受けたその祝福はすばらしいものでした。私は自分が主のみこころと違う道を歩もうとしていたことに気づき、私のすべきことは大学へ進むよりも結婚の備えをすることであると悟りました。

そのころ現在の妻（石井章恵姉妹）と文通をしていたのですが、結婚についてはそれまで何も考えていなかったのも、彼女と結婚すべきかどうかまったくわかりませんでした。そのうえ、もし彼女と結婚するとしても、問題がいくつかありました。彼女のお父さんは農業機械販売を主とする会社の経営者で、彼女は3人娘の長女であるため、私に石井の姓をとり、会社を継いでほしいと言うのです。

姓が変わること、今までまったく未知の農業、さらに苦手な機械に関連した仕事など、悩みの種ばかりでとても不安でした。しかし最終的には、主に祈り、決めることにしました。ある日、ふたりでひざまずき祈り終えると、互いに目から涙があふれ、心に熱いものを感じました。それが主がくださった答えでした。

これが2度目の経験です。

そして3度目は、昨年11月のステーキ部大会でステーキ部長に召された時のことです。大会の前日に私はマックスウェル長老に呼ばれて面接を受け、主が私を新しいステーキ部長に召されたと言われました。私は大変驚きましたが、どのような召しをいただいても忠実に従おうと決心していましたので、素直に「はい」と答えました。

しかし、義父の経営する会社の次期社長という私の立場では、ステーキ部高等評議員の召しを果たすだけでも父からあまり快く思われていないようで、父に何と言って説得しようかと悩み、その夜は一睡もできませんでした。マックスウェル長老から大会までに了承を得るように言われていましたので、私は焦燥にかられました。

「もしだめだと言われたらどうしよう。」

「主どうぞ父の心を開いて私がこの召しを果たせるように助けてください。」と、私は夜を徹して祈りました。

大会当日の朝、まさに祈る思いでそのことを父に話したところ、予想に反して私の願いを聞き入れてくれたのです。主の助けがあったことに心から感謝しました。

私は主が生きておられることを知っています。私たちが主の命令に忠実に従うならば、主は必ず道を用意してくださることを証します。これまで私を導いてくださったすべての方に心からの感謝を表したいと思います。（いしい・てつじ 1951年生まれ）

真理を求めて

札幌ステークス部長
西田 孝雄

19 77年6月30日にバプテスマを受け教会の門をくぐってから10年5カ月、よもやこの私がステークス部長に召されるとは……。人生とはなんと不思議なものでしょう。

バプテスマに先立つこと2日前、6月28日の夜、私たち夫婦は長い話し合いに疲れていました。しばらく沈黙が続いた後、私は妻に言いました。「私にはもう、神様がいるとしか思えないよ。」妻も「そのとおりねえ。ふたりの宣教師の訪問によって我が家にはこんなにたくさんの祝福がもたらされましたものね。私もやっぱりこういう生き方が真実だと思うわ。」私たち夫婦は、その日完全な一致を見ました。そして、その日のうちに電話で宣教師にバプテスマを受ける決心をしたことを伝えたのです。

私たち家族は、ふたりの宣教師の訪問を受ける以前もとても幸せな日々を過ごしていました。ほとんど何不自由することなく、お互いを信頼し合う堅実な家族であつたと思っています。子供たちもとてもよい子ばかりでした。

●西田ご家族



私は自我に目覚め出したころから、人道主義的なものにあこがれ、労働組合や政治などに大変興味を持ち、特に労働組合の中では、1年間職場を休職し専従役員として働いたこともあります。私には人生の中で体得したひとつの哲学がありました。それはカール・ホッパーの哲学で、「科学的に人間の到達し得る真理は完全なものではなく、時を経るに従って絶えず新しいものに改められるべきものである」というものでした。

私はこのカール・ホッパーの理論をつきつめていくうち、この世には科学ではいまだ到達できない絶対的な真理があるはずであり、それを知ることは可能であるのか、もし可能であるとすればいかなる方法によるのか、という疑問を持つようになりました。

表面的には、私は生きることに関し自信満々でした。しかし完全に満足していたわけではありません。それはそのような疑問に対する満足のいく答えを見いだすことができなかったからです。

そのようなときでした。ふたりのアメリカ人宣教師が我が家を突然訪ね、「あなたは真理を知りたくないですか」と言ってきたのです。私はあまりにも予期せぬ出来事に驚きました。妻から、私の不在中にも何度も訪ねて来てくれたことを聞かされ、とにかくその努力に報いる意味で彼らの話を聞くことにしました。それが末日聖徒イエス・キリスト教会との最初の出会いでした。

しかし、最初のころのレッスンは壮烈な議論から始まりました。私は自分の人生観を哲学として持っておりましてので、さっぱりレッスンは進まず、議論の繰り返しでした。神様などというものは到底信じられず、ジョセフ・スミスの見神も、金版の話もまったく受け入れられませんでした。

妻もこのレッスンを非常に嫌がり、「あなた、何とか早く神様なんかやめにしてもらってくださいよ!」と言い出す始末でした。私の求道者の期間はこのような状態が大部分でした。

それ以前にもほかの教会の宣教師と議論をして論破したこともありましたが、このモルモン経には奥深いものを感じ、いやいやながらも会社へ持っていく昼休

みなどに読んでいました。当時私は税務署に勤務していましたが、ある日、ひとりの女性が税金の相談にきました。私はその女性の応対をしながら、その人が以前私と議論をしたことのあるほかの教会の宣教師であることを思い出しました。私はひととおり公務を終えてから、彼女に尋ねました。「私を覚えていますか。」すると彼女も私のことを思い出したらしく、積極的にイエス・キリストについて話を始めました。私は机の中からモルモン経を取り出し、「私はイエス・キリストの勉強をしています」と言いました。彼女はモルモン経を見ると、がぜん語気を強めて私に向かってきました。

しかし、私は今は公務中であるからと言って彼女にその場を引き取ってもらいました。それは私にとって不思議な出来事で、なぜ、2度までも彼女に会わなければならないのか考えました。そして本当にこのモルモン経が真実のものであるかどうか最終的な答えを出さなければならないと強く感じ、その日の夜、私は初めて天父に心から祈り、その答えを求めたのです。宣教師に出会ってから4カ月を経過していました。

はたして、その祈りは答えられました。神様の生の声は返ってきませんでしたが、私にははっきりと感ずるものがありました。

私は神様を知る喜びを感じました。それと同時に、宣教師から真実をもっと学びたいという気持ちが高まりました。

そして、真の宗教とは「思いと行ない」であり、自分の人生も家庭もすべて福音を実践することにより、幸福を得られることを知りました。確かに自分の家庭は教会員になる以前も幸福でした。そのうえ末日聖徒の家族となった今、私の家族と私の人生はどれほど幸福であるかわかりたいだけのことと思います。

神様は、この度私にステークス部長というとても重い「試し」をくださいました。私を取り巻く状況を見ると、それはとても多難なように思えます。しかしその向こうには、イエス・キリストが手を広げて私を迎え入れようとされている姿が見えます。私は、このような希望と信仰を持って頑張っていきたいと思います。

(にしだ・たかお 1947年生まれ)

「喜び楽しめ わが心よ」

福知山地方部長
玉屋 晃生



私が今一番会ってみたい人物、それは予言者ジョセフ・スミスです。妻も同感だと言います。イエス・キリストを除くほか、彼がこの世で最も人類に貢献した人物であることを、いつか万人が認める日が来ることでしょう。彼の信仰、人格、行ないすべてが私に喜びと勇気を与えてくれます。

ジョセフ・スミスの見神を初めて聞いたとき、高校生だった私は大きな衝撃を受けました。この教会を知る以前から、私はいろいろな宗教に関心を持ち、本を読み、集会にも参加していましたが、心を動かされることはありませんでした。

北陸の空は、11月ともなると北国特有の鉛色に変わってしまいます。そんな肌寒い日、私は学校の帰りに金沢で宣教師と出会いました。城下町での外人はやはり珍しい存在でした。私は彼らの温かい態度と流ちょうな日本語に驚き、どんよりした空とは対照的に、心にぱっと明るいものが差し込んできたのを覚えています。約1カ月間、家庭集会を受け、モルモン経を読み、祈りを通して迷わずバプテスマを受ける決心をしました。1965年12月19日に私の新たな人生が始まりました。

それ以来、多くの兄弟姉妹のフェロシップと指導者の導きにより、今日まで信仰生活を続けてくることができました。今、日々の生活を振り返ってみて、5人の子供や教会、聖典を通して多くの恵みを受けてきたことがわかります。特に神様の愛と祝福に深く思いをはせるとき、ただただ感謝の気持ちでいっぱいになり

ます。約20年間の信仰生活を考えるとき、人生の節目節目に必ず偉大な教会の指導者との出会いがありました。悩んでいるとき、苦しんでいるとき、また喜びのときも私にとって最もふさわしい指導者が与えられました。もちろん指導者からの助言に対して「なぜ？」という疑問を持ったこともときにはありました。しかし時がたつと、それらはすべて感謝に変わりました。指導者の召しや解任は私にとって大切な証のひとつとなっています。

私は現在、陶器作りの仕事をしています。おもに日用雑貨を作っています。それは土と炎、そして感覚の世界です。この仕事は、自分の信仰生活に試練と同時にとても良い影響を与えてくれています。作陶は土との対話から始まります。良いものを作ろうと構えても、決して満足のいくものはできません。むしろ利己心を捨て、土に歩み寄ろうと努力したとき、結果として納得のいく作品が生まれたように思います。信仰も同じで、利己心を捨て、私たちの方から神様に近づこうと努力して初めて喜びを得ることが出来ます。モルモン経の偉大な予言者モーサヤはこうに言っています。「お前たちがもしも神の栄光を知り、あるいは神の恵みを知り、神の愛を味わい、自分の心をこれほどまでに喜ばせる罪の赦しを受けているならば、私はお前たちが常々神の偉大なことと、自分が役立たずで何のねうちもないことと、恩を受けるねうちもない自分に神が恵み深く辛抱強くましますこととを忘れずに思い起して低くへりくだり、毎日毎日主の御名によって祈り、

天使の口から示された将来のことを確く信じて変らないことを望む。

もしもお前たちの行いがこのようであるならば、お前たちはいつも喜び、神の愛に浴し、いつも罪の赦しを保ち、お前たちを造りたもうたお方の栄光、またはすべて正しく真実であることをいよいよ深く知ようになる。」(モーサヤ4：11-12)

私は1987年11月8日に地方部長の召しをいただきました。高慢な私をも、主は器として用いてくださいます。地方部の多くの会員に神様の愛を伝え、喜びのある生活が送れるよう手助けをすることが私の大きな責任であると感じています。

現在福知山地方部には8つの支部があり、聖餐会の出席は20名前後といった支部がほとんどです。しかし会員は一生懸命に集い、その信仰の強さはすばらしいものです。特に、熱心に献身的な奉仕をされる支部長の兄弟たちにお会いする度、私は心に喜びを得、励まされています。同時に私の責任の重さを痛感しています。ときどき、私に一体何ができるのかと不安になることがありますが、そのようなときに思い出すのが「見よ、これわが業にしてわが栄光、すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり」(モーセ1：39)という聖句です。この短い聖句は、私が何をなすべきか、何を根本的に考えねばならないのかを単純明快に教えてくれます。すなわち、私たちがキリストの贖いと復活に感謝し、与えられている戒めと儀式を積極的に守り、行ない、生活に取り入れること、それが神様の栄

光、言い換えれば喜びなのです。目標は
実にはつきりしています。そのための手
助けをすることが地方部長として、また
父親としての私の大切な責任だと思うの
です。

現代は物が豊かにあふれ、人々はすっ
かり主を忘れてしまったかのようです。
末日聖徒も多くの影響を受けざるを得ま
せん。私自身も毎日の生活を振り返って
みると、あまりにも主を畏れない言動
をしている自分に慄然とすることがあり
ます。そんな中で大切なのは、イエス・
キリストへの感謝の気持ちと神様に対す
る畏れと信頼を決して忘れないことでは
ないでしょうか。それが信仰の原点であ
ると私は思います。

私は神様への感謝と愛をこれからも常
に心に覚え、信仰生活を楽しみたいと願
っています。「目醒めよ、わが心よ。もは
や罪のために溺れるな。喜べ、わが心よ。
これからはもはやわが身と霊の敵を近づ
けるな。……喜び樂しめ、わが心よ。主
に叫んで言え『主よ、われはとこしえに
主を讃め奉る。まことにわれは主なるわ
が神、わが救いの岩によりて喜ぶ。』」(II
ニーファイ4：28、30)

宣教師の導きによって今日あること、
また、指導者や家族の助けに心から感謝
しています。神様とイエス・キリストが
生きて、私たちを愛し導いておられるこ
とを証いたします。(たまや・あきお
1947年生まれ)

私の改宗前後と宝物の箱

横浜ステークス部小杉支部

新堀秀孝

私は1984年3月7日に東京南ステ
ークス部千束ワード部でバプテスマを
受けました。

1947年に大学の土木科を卒業し、ある
大手建設会社に入社して約18年間、終戦
時に習い覚えた英語が役立って、日本復
帰以前の沖縄の飛行場工事や、タイ国バ
ンコクの国道工事の所長などを務め、あ
ちらこちらとほとんど休むことなく勤務
していました。

給料が先輩を追い越すごとに快感を覚
え、もっと昇進したいとの欲望がつる
ばかりでした。ついには自分がこんなに
会社のために働いたのに報いが少なすぎ
ると不満に思うようになって、当時本社
では最年少の課長であったにもかかわらず
退職してしまいました。

その後の約20年間は、在職中に国家試
験合格祝金まで頂いた技術士の資格を活
用し、建設コンサルタントとして働きま
した。国内や海外の諸種の計画や設計と
施行指導を仕事とし、何でも自分が考え
たとおりに行ける状況にあったことから

高慢になり、十戒のほとんどを破った生
活をしていました。そのころはそう
な人が成功者だと思っていたのです。

ところが1981年春に母と死別してから、
母を恋しく思う気持ちが強くなり、死後
の世界で母と共にあるためにはどうすれ
ばよいのだろうと考え、いろいろな宗教
書を読みました。ときには、ある宗教家
と問答をしたこともありましたが、いず
れも私には信じられませんでした。約2
年間は働く気力も失い、「人生の目的」を
探しつつ、むなしい日々を送ってしまし
た。

1983年秋のある午後、我が家の扉の前
にふたりの質素な身なりの宣教師が立ち
ました。「キリストの福音についてお話を
したいのですが、少しだけ時間がありま
すか」と、笑みをたたえながら、たどた
どしい日本語で一生懸命話しかけてきた
のです。その瞬間、「大事な事がわかる時
が来た」と思いました。どうしてそのよ
うに感じたのか理由はわかりません。

カナダとミネソタから来たその姉妹宣
教師から、人生の目的について考えたこ
とがあっただかどうかと尋ねられたこと
を今でもはっきりと覚えています。この
日は夢中で2時間ほど話し込みました。
彼女たちが「これから会う予定の人が待
っているの、また来たいと思いますが、
いつか時間はありますか」と丁寧に聞か
れるので、「あなたの方の都合のいいときで
結構です」とお答えしました。数日後に
は「福音の原則」の本を使ったレッス
ンを受け始めました。

初対面のときに、「これだ」と直感した
のは、「私たちは不完全であり、神様は完
全であられる」という原則です。

この年の終わりにごころには、知恵の言葉
も固く守っておりましたので、友人たち
から意志の強い人だと尊敬されていたよ
うです。お正月には隠退していた父の家

新役員の聖任【任命】

11月17日から12月18日までに管理本部会
員記録統計課に通知のあった役員の異動
(敬称略)

●高崎ステークス部高崎ワード部

新監督：小林至(前任者：浜田哲)

●長野地方部長長野支部

新支部長：石田康夫(前任者：埴沢健一)

●静岡ステークス部浜松ワード部

新監督：太田宜克(前任者：細井隆)

●静岡ステークス部静岡ワード部

新監督：三ツ谷幸治郎(前任者：三輪芳
男)

●名古屋ステークス部刈谷ワード部

新監督：築山忠成(前任者：寛八郎)

●名古屋ステークス部名東北ワード部

新監督：釣秋雄(前任者：山口貴幸)

●名古屋ステークス部名東南ワード部

新監督：志村仁志(前任者：今泉秀之)

●名古屋ステークス部名古屋南支部

新支部長：塚原俊英(前任者：湯浅博満)

●名古屋ステークス部春日井支部

新支部長：石川賢一(前任者：加藤明雄)

●福知山地方部宮古支部

新支部長：赤崎勉(前任者：宣教師)

●広島ステークス部広島高須ワード部

新監督：澤正浩(前任者：岡野光洋)

●熊本地方部諫早支部

新支部長：竹馬庸裕(前任者：菅原謙一)



●リハビリ中の新堀兄弟(左から二番目)
小杉支部の兄弟たちと共に

に行って、訪問客のお相手をさせられましたが、同席のお客様に「私は末日聖徒イエス・キリスト教会に入るために、まだ勉強中ですが、とりあえず酒とたばこ、お茶を口にしないことにしておりますので、ご了承ください」とお断わりして座に着いたものでした。

3月5日に、父も老衰していましたので、名代として親戚や知人を集めて母の三回忌を営み、仏事の施主を勤め終わって、父から改宗の了解を得ました。私は4人兄弟の中でたったひとりの男子だったので、明治生まれの父にとって、それはとてもさびしい決断だったと、後年、妹から聞かされました。その2日後の3月7日に私は安心してバプテスマを受けたのでした。

それから間もなくバングラデシュ政府の仕事に要請され、工事管理のゼネラルマネージャーとして首都ダッカに行きました。回教国家なので、金曜日が休日と定められていて、キリスト教徒である私や部下の米国、フィリピンの技師たちは、安息日に休むことができなくてとても困りました。

そこで私は、毎週休日には千束ワード部に手紙を書き、10人以上の兄弟姉妹や宣教師たちと手紙の交換を続けたのです。この方法で証を語り合い、兄弟姉妹から送られた寄せ書きを見て自分も教会に同席しているような心境になり、大いに励まされました。

例年5月から11月の半年間は雨季で、ほとんど陽光を見る日がありません。私はガンジス川の下流をベンガル湾に向かってモーターボートを走らせ、工事中の島を視察することになっていました。屋根のない船なので、雨に遭うと全員下半身がびしょぬれになるのが常でした。

ところが私が赴任してから、私たちが移動している道筋だけが雨雲が切れて、ときどき明るい光が当たり、それ以外は全部暗黒色で雨脚が見えることがよくありました。

このような不思議な現象が毎回続いたので、カトリック教徒のアメリカ人から「きょうもあなたの神様にお祈りをしてきてくれましたか」と出発前に尋ねられるようになりました。

伝染病院の隣で仕事をしていて、ときどき洪水で庭に濁水があふれることがありましたが、私は全然コレラにもかからず、またベンガルなまりの強い英語も、事前の祈りによって聞き取る能力に恵まれ、仕事は順調に進んでいました。

堤防と水門の工事が私の計画どおりに盛期を迎えた10月下旬、私の乗った自動車^{ダクスイ}が衝突事故を起こしました。幸いにも現地人の運転手は軽傷だったのですが、私は右半身数カ所の骨折と裂傷、やけどで、1週間後に東京の病院に送られ、数回の大手術でようやく一命を取りとめました。この10日間のことは何ひとつ記憶がありません。

満3年たった現在でも、両手と両足に神経麻痺の後遺症が残って、階段の上り下りが少し困難で、歩行もときどき思うように足が動かず、転ぶことがあります。また両手の指もよく動かず、はしやボールペンが使えません。

しかし神様は私に特別にすばらしい宝物の入った箱を下さいました。長い病院生活で、様々な人生勉強をする時間が与えられ、他人の不自由や痛み、苦しみがよく理解できるようになりました。自分よりも先に他人を哀れむ気持ちが強くなり、そのときどきに適切な対応ができる心の宝を下さいました。神様が私に体験教育を施してくださったと感謝しています。

右手に毛筆を持ち、左手で紙を動かして手紙を書くこともできるようになりました。入院中の現在でも、兄弟姉妹と証の交換ができ、あわせて私の社会復帰のための訓練の機会となっています。私のこの箱にはこのほかにもたくさんの宝物が入っていて、復帰の日までに輝きが増すように手入れをしている最中です。(にいぼり・ひでたか 1925年生まれ)

すべての人々に福音を

札幌西ステークス部手稲ワード部
木田 英子



耳の聞こえない私が教会に入って、もう1年が過ぎました。今振り返ってみると、あつという間のことのです。私は高校生のときプロテスタントの教会に行っていましたが、あまり活発とは言えませんでした。それからしばらくして、末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師と出会い、ジョセフ・スミスやモルモン経、イエス・キリストについて教えていただき、教会でレッスンを受けるようになりました。

教会に行くと、宣教師や教会員の皆さんがやさしく握手で私を迎えてくれました。今までの私の生活では、このような

ことはまったくありませんでしたし、考えることもできませんでした。それに皆さんの笑顔が私の心を明るくしてくれました。心の温かさを肌で感じることできたこのときの思いは、一生忘れることはないでしょう。神様の教会はこのような所ではないかと思いました。

みたまの導きなのでしょうが、宣教師から福音を学び信仰がだんだん育っていく自分がはっきりわかりました。福音を教えていただく日が楽しく続き、2週間後の8月30日にバプテスマを受けました。日がたつにつれて、少しずつ自分が変わっていくように思われました。教会に集

11月に 召された JMTC 第102期生 13人の名簿

S:ステーキ部 D:地方部
W:ワード部 B:支部

後列左から1～7
前列左から8～13



〈名 前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉	〈名 前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉
1. 大 井 利 仁	大阪堺S/和歌山W	岡山伝道部	8. 溝 淵 理 泰	東京北S/川越W	大阪伝道部
2. 本 橋 正 雄	大阪S/阿倍野W	岡山伝道部	9. 吉 留 里 美	鹿児島D/谷山B	大阪伝道部
3. 小 板 橋 節 子	札幌西S/新琴似W	福岡伝道部	10. 小田原充代子	熊本D/熊本B	大阪伝道部
4. 京 谷 彰 子	大阪S/東大阪W	神戸伝道部	11. 潟 沼 佳 代	札幌S/厚別W	大阪伝道部
5. 北 川 恵 子	北陸D/金沢B	神戸伝道部	12. 藤 本 洋 子	広島S/柳井B	東京北伝道部
6. 町 井 幹 子	大阪堺S/河内長野B	神戸伝道部	13. 岡 本 理 英 子	東京東S/松戸W	仙台伝道部
7. 渡 辺 敬 嘉	高崎S/宇都宮B	札幌伝道部			

うことにも慣れて、たくさんの兄弟姉妹と友達になることができ、それが永遠の友達であることがうれしく、心からの喜びを味わっています。

私は耳が聞こえないのですが、毎週安息日に教会へ行くと「おはようございます」「お元気ですか」と皆さんが手話であいさつをしてくれます。私も「はい、元気です」と手話で答え、それだけでも心が生き生きとしてきます。また、教会員の方々が主のみ業のために一生懸命働いている姿を見て、本当に感心するばかりです。雨の日や冬の寒さの厳しいときでも、すべての時間を伝道の業に捧げてくれる宣教師の方々には、感謝の気持ちで胸がいっぱいになります。

健聴者ばかりではなく、ろうあ者や障害を持つ人たちにも、もっともっと伝道してくれたらと思います。神様はどんな人にも福音を伝えなさいと教えておられます。神様の前では、ろうあ者も健聴者も同じはずです。

最近、同じ障害を持つ職場の仲間に神様について話す機会がありました、ま

ったく耳を傾けてくれませんでした。「神なんて」という目つきで見られたり、かえって問題が起こりそうになったこともあって、いやな思いをしました。そんなとき、モルモン経に登場するモーサヤの息子たちが、伝道中何度もむち打たれ、石を投げられ、つばを吐きかけられ、牢に閉じこめられたことを思い出し、涙があふれてきました。今伝道しているたくさんの方々の宣教師の方々も、きっと同じようにつらいことやいやな思いをするときもあるだろうと考えると、私も頑張らなければと思います。

ある日、宣教師の方に頼まれて手話でレッスンのお手伝いをしました。レッスンのお手伝いをしていると自分のバプテスマのことが昨日のことのように思い出され、本当に楽しく、うれしい気持ちでした。さらに、レッスンをお手伝いしたろうあ者の姉妹が数日後バプテスマを受けたときには、私の喜びは格別なものとなりました。本当によかった、よかったと何度も心の中で喜びをかみしめ、今まで知っていた喜びとは違う、心からの幸

福な思いを味わいました。

仕事上のトラブルや、自分自身の弱さのために落ち込んだり、捨てばちな気持ちになったり、会社をやめたいと思ったりしたこともあります。しかし私には、祝福師の祝福を受け、神殿に入りたいという念願がありましたので、思いを正し、霊的な備えをすることで、そのような状態から立ち直ることができたようです。

主が生きておられ、いつも私たちを心から愛され、私たちの成長を見守っておられることを証します。またイエス様が地上においでになったとき、最初にその深い慈愛を示されたのは私たちのような障害者であったことを忘れることができません。このことをろうあ者の仲間証したいと思います。教会員は私の永遠の友達です。末日聖徒イエス・キリスト教会は回復された真の教会です。ジョセフ・スミスは神の予言者です。福音が真実であることを証いたします。(きだ・えいこ 1962年生まれ、手稲ワード部扶助協会書記)

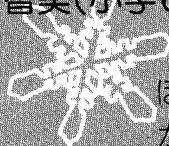
畑めになじん

札幌ステキ部新琴似ワード部
辻 智美(小学6年)

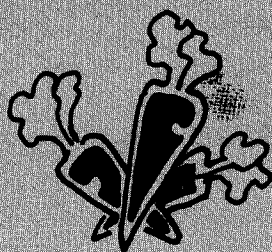


この前の朝
雪がふった

昼
雪でいっぱい畑をほつてみると
かれ草がたくさん出てきた
あちこちほつている
「あ!」
なぜだろう
青々とした草がある
草をひっこぬいてみると
とても元気になじんが出てきた
雪の中の土はとてもつめたい
それでもなじんはこらえて
元気にすごした



ほかのものはみんな
かれたりしばれていたりしたのに
なじんだけはこらえていた



私たち人間もあのなじんのよう
強くなれたらいいと思う
どんなに苦しくても
その苦しみをのりこえられるよう
こらえてがんばる人間が
たくさんいたらいいと思う

(つじ・ともみ 1975年生まれ)

*しばれる=こおること



完成した新潟地方部 長岡支部教会堂 (1987年11月12日完成)

敷地面積:661㎡
建築面積:256㎡
延床面積:629㎡



新教会堂
の紹介

〒940 新潟県長岡市干場2丁目6-3
☎0258(35)5438

編集室から

●心に残った記事の感想文、各地の話題や行事、「日々の恵み」コーナーの証、「職業と信仰シリーズ」、カットなどをお送りください。また、北は北海道から南は沖縄までの幅広い話題を取りあげたく思いますので、広報ディレクターあるいは各種催し物を担当する高等評議員／地方部評議員の方はレポーターを手配してくださるようお願いいたします。4月号掲載分の締切りは 2月8日〔必着〕です。投稿には必ず連絡先〔電話番号〕、教会での責任〔役職名〕、生年月日を記入してください。お送りいただいた原稿は一部手直しすることがあります。

●あて先:〒106 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室 ☎03(444)5264

■お詫びと訂正——1月号p.56のゴードン・B・シンクレイ長老のお話の中で「祭司の職に任命しました」とあるのは「祭司の職に聖任しました」の誤りです。





ニーファイと 荒野への旅

——学術調査とモルモン経——

モルモン経の中には明らかにヘブライ民族の影響が色濃く示されていると末日聖徒は信じています。教会員ではない学者はこの点をあざけり、重要なこととは考えていません。しかし、モルモン経の中にヘブライ文化との際立った共通点を見いだす学者は増加する一方であり、モルモン経がヘブライ人やその文

化と深いつながりを持つとする聖典に記された内容は支持を集めています。最近でも、ジョージ・テイト、ジョン・W・ウェルチ、アーブラーハム・ギリアダイら3人の学者の調査によって、次のような報告がなされています。ヘブライ文化の最も重要な特色のひとつと目される出エジプト伝承群が、ニーファイ第一書の

全編に盛り込まれているということです。

ニーファイ自身ユダヤ人であり、ユダヤ人の両親にエルサレムで育てられました。彼は、父親に学び、ユダヤ人の学問を身につけて記録を記したと述べています。(I ニーファイ1：1-2 参照)こうした背景を考慮すれば、ニーファイはヘブライ民族の歴史におおむね通じ、おも

なヘブライ文学は知っていたはずですが。

ニーファイは真鍮版からエジプト脱出の物語を知ることができました。この真鍮版には、エジプトからのイスラエル人の解放物語だけでなく、モーセの五書も収められていました。(I ニーファイ 5 : 11, 15 参照) この真鍮版がニーファイの記憶を補い強めたことは疑いのないところですが、リーハイの家族が真鍮版を手にする以前から、ニーファイは出エジプト物語については知っていたのです。

(I ニーファイ 4 : 1 - 3 参照)

ニーファイは出エジプト物語を熟知しており、明らかにエジプト伝承群を利用して記録をまとめることに慣れていました。出エジプト伝承群とは、奴隷が神の助けによって救出されるという一定のパターンをもった様々な物語のことで、聖書やユダヤ人の書物にはよく見受けられます。

出エジプト伝承群ではある事件がいかにか救出のパターンと一致するかという点に主眼があるために、数々の事実の生起する順序はあまり重要視されていません。したがって、ニーファイの記事は必ずしもモーセの残した記録の順序に添って記されてはいませんが、両者の記録には脱出行に関する共通のテーマが多数見受けられます。その一部をここに掲載しておきました。(このリストは完全なものではなく、あくまでも参考用であって、順位と重要性の間には何の関連もありません) 類似点はきわめて多く、物語の結末は同じです。つまり、民は約束の地に到着した後、主が神であることと自分たちを滅亡から救いたもうことを知るというものです。

出エジプト伝承群の結末に共通したひとつの特徴は、物語の最後が次に続く新時代の幕開けにつながっているという点です。出エジプト伝承群を形成する様々な物語の事件を体験した後、バビロン、

つまり悪の世界からついに予言どおり解放されて一時代を画するというものです。脱出期の最後の日に語られる究極の証は、出エジプト記でも、ニーファイ第一書にあるエルサレム脱出行でも同じものです。「されば、天下の民は主なるわれが汝らの救い主であって、汝らの贖い主、ヤコブの全能者であることを知るのである。」(I ニーファイ 21 : 26。イザヤ 49 : 26 参照)

ニーファイの出エジプト伝承群の用い方を見ると、彼がヘブライ文学の手法を自由に駆使していたことがわかります。彼の手になるニーファイ第一書は、ヘブライの構成手法、ヘブライの予言の仕方、ヘブライの表現方法、ヘブライ文学に登場するテーマで満ちています。実にこれは「ユダヤ人の学問……から成っている」書物なのです。(I ニーファイ 1 : 2) □

ニーファイ第一書と出エジプト記の類似点

ニーファイ第一書	出エジプト記	記事共通テーマ
1 : 6 ; 16 : 16	13 : 21	主の導きを受ける
1 : 20	1 : 11 - 16	抑圧された状態
2 : 2	3 : 7 - 18	主から脱出の命令を受ける
2 : 6 - 7	3 : 18 ; 15 : 22 ; 20 : 25	3 日の旅の後、犠牲を捧げる
2 : 11 - 12 ; 5 : 2 ; 16 : 20	15 : 24 ; 16 : 2 - 3	主に向かってつぶやく
2 : 15 ; 3 : 9 ; 10 : 16	18 : 7 ; 33 : 8	天幕に住む
2 : 20	3 : 17	新たな受け継ぎの地を約束される
4 : 12	17 : 8 - 13	敵に打ち勝つ
7 : 6 - 7	14 : 12	元の地に帰ることを願って反抗する
9 : 1 - 4	17 : 14	旅の記録
11 : 1 - 14 : 27	19 : 19 - 31 : 18	高い山の上で教えを授かる
15 : 6 - 16 : 5	19 : 3 - 25	天の教えを受け、予言者が民を教える
16 : 10	7 : 9 - 21 ; 8 : 16 ; 14 : 16	奇跡的な道具 (杖とリアホナ)
17 : 3 - 5	16 : 11 - 18	主によって食糧を備えられる
17 : 4	16 : 35 ; 申命 8 : 2	長期にわたって荒野の旅を続ける
17 : 6	16 : 3 ; 17 : 1	荒野で様々な苦難を味わう
17 : 26 ; 18 : 8 - 23	14 : 21 - 22, 29 ; 15 : 19	海を越える
17 : 55	14 : 31 ; 20 : 12	主の力を認める
18 : 7	18 : 3 - 4	荒野でふたりの息子が生まれる
18 : 8	14 : 21	主が風を吹かせたもう
18 : 9	32 : 18 - 19	邪悪なお祭り騒ぎにふける
18 : 20	32 : 10	主から死の脅威にさらされる
18 : 23 - 25	ヨシュア 11 : 23	約束の地を受け継ぐ
19 : 11	20 : 18	雷が生じ、稲光が走る

ポルトガルの聖徒たち

ドン・L・サール

フェルディナンド・マゼランやバスコ・ダ・ガマを生んだ
この国で、今は多くの改宗者が新たな霊的生活に心を向け
ている。



著 いポルトガルの建築家アルチノ・シルバは1976年12月のある日の午後、事務所で仕事をしているときに、ポルトガルの主要都市ポルトにアメリカ人宣教師の一行が到着したというニュースをラジオで聞きました。そしてそのうちのふたりが、その日の晩に彼の家のドアをたたいたとき、アルチノは彼らがそんなにも早く自分の家を訪問してきたことにびっくりしていました。

彼と妻のナザーレは、福音に対して最初から心を開いた非常に熱心な求道者でした。ふたりは宣教師から教わった什分の一などの教えをすぐに実行し始めました。それまでカトリック教徒として育ってきたナザーレは、ほかにも教会があるなどとは夢にも思っていませんでした。しかし宣教師から教わったことはどれもみな、彼女がそれまで心の中で信じてきたこととまったく同じものでした。彼女はこう話しています。「家族はこの世だけのものではなく、永遠に続くものであるという教えは、私にとってこれまでで最も素晴らしい教えとなりました。」

やがて、ふたりはバプテスマのチャレンジを受けましたが、アルチノはまだそのような約束をする用意ができていないと言って断りました。

ナザーレは夫のその決断に内心動揺しました。というのは、彼女はすでに宣教師から学んだことについて祈り、真実であるという証を得ていたからです。彼女はアルチノの中に大きな葛藤^{かつどう}があることを知りませんでした。その月曜の晩、宣教師たちがシルバ夫妻のアパートを去ったあと、アルチノは相反するふたつの思いに頭を混乱させながら言いました。「彼らと呼ば戻すんだ。いや、いい……やっぱり

呼び戻そう。……いや、やめておこう……。」

宣教師たちは金曜日にまた来ることになっていました。しかし週の中頃、彼らはシルバ夫妻を再度訪問するようにとの強い気持ちを感じました。宣教師の訪問を受けたアルチノはこう言いました。「あなたがたがここに來られたからにはバプテスマの日を決めなければなりませんね。」

1977年2月にバプテスマを受け、シルバ夫妻はポルトの数少ない末日聖徒の仲間に加わりました。その地域での教会の発展に伴い、アルチノとナザーレはいろいろ指導的な責任を受けました。彼は現在、国内では2番目のポルトガル・ポルトステーキ部のステーキ部長の責任にあります。

奉獻の祈り

1975年4月22日、十二使徒評議員会会員のトーマス・S・モンソン長老は、ポルトガルを伝道の地として奉獻しました。シルバ夫妻は、モンソン長老がその奉獻のときに心に描いていた会員像そのものと言えるかもしれません。リスボン郊外にある風の強い丘の上で、モンソン長老は数少ない宣教師とバプテスマを受けたばかりのポルトガル人会員が取り囲む中で、「今朝ここに集った人々の上に祝福があるように」と祈り、さらにこう続けました。「彼らは確かに、人が従うべき道を示す開拓者たちです。天の父よ、願わくは、この地に会員が増えますように……。」

そこは、海岸線に押し寄せる大西洋の白波がレースのような美しい模様を見せてくれるロカ岬からさほど遠く離れていない地でした。モンソン長老はそこで次のような奉獻の祈りを捧げました。「父よ、我らはいにしえにこの地より

航海者が旅立って行ったことを知っています。またポルトガルの人々が冒険心に満ち、あなたを信頼し未知の世界への探索に向かったことも知っています。願わくは、彼らがあなたを信頼し、この日より、永遠の生命へと導く真理に心を向けていくように……。」

現在の第二副管長であるモンソン長老によって捧げられたこの祈りは、教会の急速な発展という形で着実に成就されつつあります。

末日聖徒の宣教師が初めてこの地に到着したのは、ポルトガル政府の許可が下りた1974年の後半のことでした。1975年の7月には、わずか100人の末日聖徒がいるだけでした。しかし1978年には会員が1,000人以上に、そして1984年の中ごろまでには約5,000人に増え、それ以後は2倍以上に増えています。1987年の終わりまでに、ポルトガルの末日聖徒は1万1,000人以上になると見られています。昨年のリスボン伝道部の分割に伴い、新たに北部を管理するポルト伝道部が開設され、7月から活動を開始しています。

備えられた人々

ポルトガル・リスボンステーク部のステーク部長ビター・マルチンズは、ポルトガルへの福音の到来はまさに時宜を得た出来事であり、主に備えられた多くのポルトガル人が福音を受け入れる用意ができていたと語っています。マルチンズステーク部長自身も、こうした初期の改宗者のひとりです。

また彼は、ポルトガル人は非常に謙遜な民であり、多くの人が心を開いて宣教師の話に耳を傾けるであろうと語っています。ポルトガル人には、「人々に分け与え、人々を助ける」ことをいとわない国民性があります。多くの人々が教会の責任に熱心なのはこうした背景があるからではないのでしょうか。マルチンズステーク部長は、その例としてアントニオ・レメとマエ夫妻を含むステーク部内の多くのすばらしい人々をあげています。

レメ夫妻もまたポルトガルにおける末日聖徒の開拓者です。ブラジル出身のふたりは、パイロットだったアントニオのポルトガル国内航空への勤務に伴って、1965年にヨーロッパに移住しました。マエは、スカウト隊の手伝いをしているジェラルディン・バンガーターに出会って以来、息子がイーグル・スカウトに昇進できるよう励まし続けます。マエは知り合ってからすぐに、バンガーター姉妹が末日

聖徒イエス・キリスト教会のポルトガル伝道部長W・グラント・バンガーター長老の夫人であることを知りました。

(バンガーター長老は伝道部長に在任中の1975年4月、七十人第一定員会の会員に召されている)

マエが教会に関心を示し、もっと詳しく知りたい旨を伝え、バンガーター姉妹はすぐに宣教師を送る手配をしました。レメ夫妻は、熱心な求道者として7カ月間もレッスンを受けました。レメ夫妻が教会に加わったときも、ポルトガルの会員数はまだ少なく、リスボンのホテルの一室で集会を開いている状態でした。

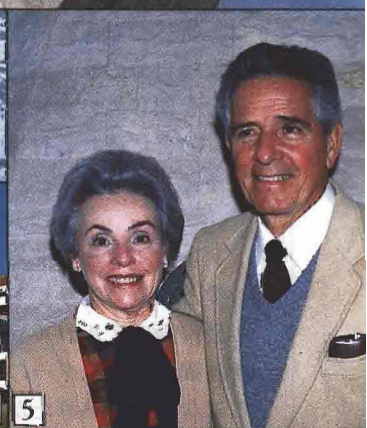
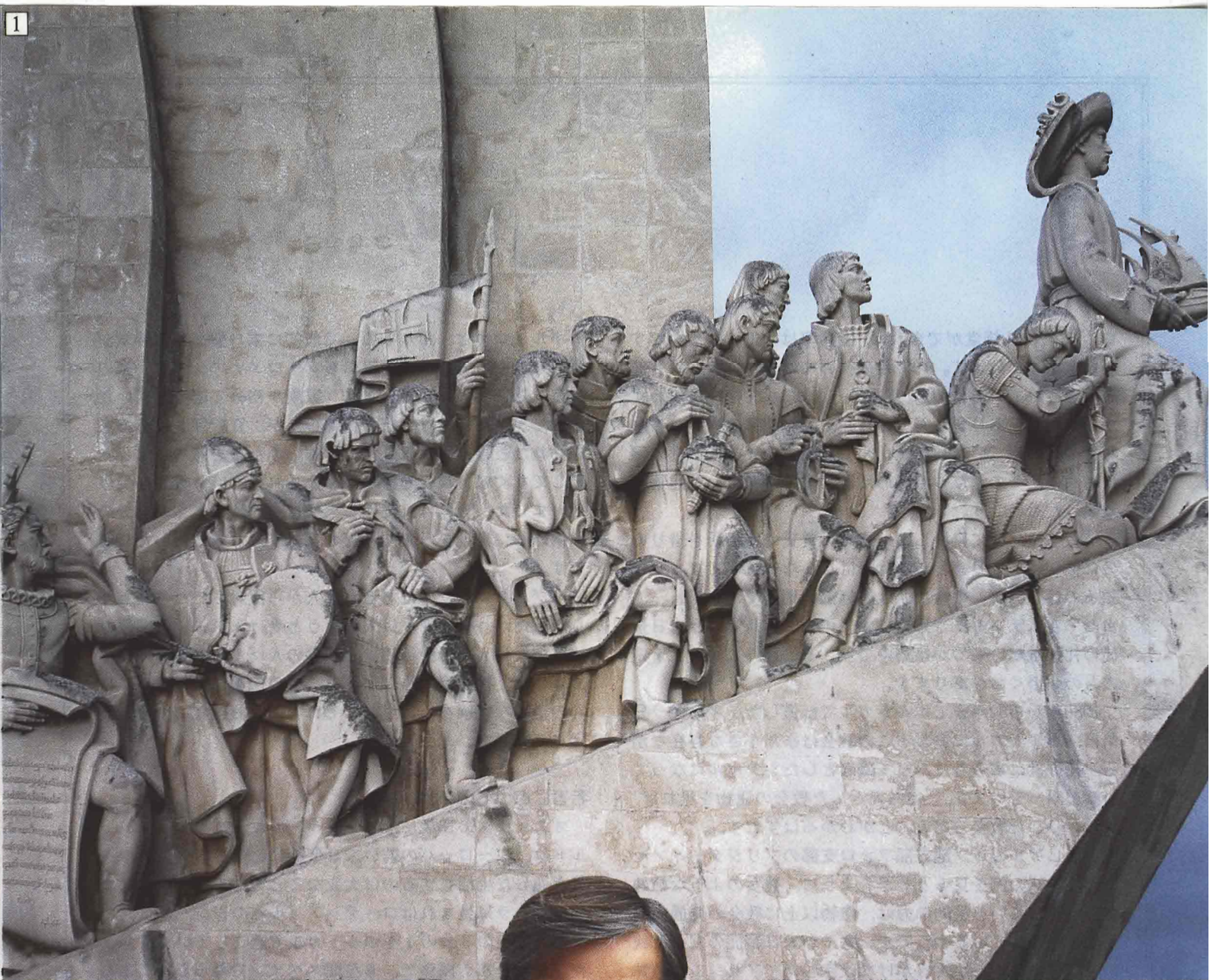
アントニオ・レメは現在、リスボン郊外の地に組織されて間もない、オエイラスワード部の監督をしています。彼はこう語っています。「私は、何かをなすように召されたら、神は必ずなし遂げるための方法を与えてくださると信じています。」パイロットの仕事から退職しても、彼は教会の召しに忙しく立ち働き、退職したという実感がわいてこないほどです。しかし彼は奉仕を特権であると考え、「教会のために時間を使うことは少しも苦になりません」と言っています。

新しい礼拝堂

レメ監督は、ポルトガルの会員たちが直面している問題のひとつとして、集会に集うための交通手段をあげています。自家用車を所有している人が比較的少なく、公共交通機関の費用もばかにならないのです。ホームティーチングや家庭訪問が思うようにできない人々もあり、多くの会員は礼拝堂に着くまで、かなりの距離を歩いて行かなければなりません。

リスボン第4ワード部のマヌエル・ホア・コレイア・テレ監督は、ワード部管轄区域の地図の真ん中を指さしながら

1. アフリカや新大陸へ向けて船出したポルトガルの航海者たちをたたえて、リスボンのタホ川添いに建てられた記念碑。右端の人物が航海王ヘンリー(1394-1460)
2. 大西洋を望むロカ岬
3. ポルトステーク部のアルチノ・シルバステーク部長夫妻
4. ポルトガルにおける教会の成長を象徴する、ポルチマに建てられた礼拝堂。今ではポルトガル各地にこのような礼拝堂が建てられている。
5. リスボンのオエイラスワード部のアントニオ・レメ監督夫妻



トーレ・デ・ベレン，ここから多くの航海者が探検旅行に出発した。



ら、「ここに礼拝堂ができれば、出席率は2倍になるんですが」と語っています。1987年の初めには、4つのワード部が組織されている100万人都市のリスボンに、礼拝堂がわずかふたつしかありませんでした。それも距離的にかなり離れた所に建っていました。ポルトガルの多くの礼拝堂の例にもれず、そのふたつも別の用途で建てられていた建物を改築したものです。

「教会は急速に発展しています。賃貸の集会所を借りるのに忙しくて走りまわらなければならないほどです。」こう語るのはリスボンの教会財政記録部の地区マネージャー、ホセ・A・テキセイラ兄弟です。ポルトガルでは今末日聖徒の礼拝堂がいくつか建築中です。それ以外にも着工予定のものがいくつかあります。

1980年から82年までポルトガルで伝道したテキセイラ兄弟は、ポルトガルにおけるこの教会はまだ小さな存在ながら、礼拝堂は求道者にとって確固としたシンボルになっていると語っています。「きちんとした教会の建物を見れば、しっかりした教会であることがわかるはずです。」

しかしアルガルブ地方部ファロ支部のブリジダ・イノセンシオ姉妹の例を見るとわかるように、彼女のような姉妹たちが持っている霊的な力は、建物以上に教会の発展に大きな貢献をしているようです。息子が末日聖徒の友人と親しくしていたことがきっかけで改宗したイノセンシオ姉妹は、折につけ人々に福音を分かち合っています。たとえば、彼女は自分の家に間違っただけの手紙をきっかけに、自分と同じ姓の女性と親しくなり、彼女をフェローシップし、教会に連れて行きました。イノセンシオ姉妹は笑顔でこう話しています。「でも彼女はまだ会員になっていません。」

アルガルブ地方部には、ブリジダ・イノセンシオ以外にも愛と一致に寄与している会員は数多くいます。ポルトガル最南端のアルガルブ地方は、「太陽のポルトガル」を象徴する観光用ポスターの背景にもなりそうな所です。2月ごろになると、熟れたかんきつ類が、家々を取り巻くうっそうとした果樹園に鮮やかな色どりを添えるようになります。ファロやポルチマオ、アルプフェイラ、ラゴスなどの海岸や波止場は、夏の間中外国からの旅行者でにぎわいます。

海岸地帯からそう遠くない地域では、丘の上に立ち並ぶ白い壁の家々を背景に、羊たちがコルクガシの木立の中で草をはんでいます。

ポルチマオは、ポルトガルで最初に末日聖徒の礼拝堂が建てられた所です。この町にもフィロメナ・シマオ一家のような開拓者の会員がいます。家族が初めて福音を聞いたとき、シマオ姉妹はまだ十代でしたが、宣教師が彼らの家を訪れたとき、彼女は「とても強いみたまを感じ」ました。そしてすぐに、現代も啓示が与えられるという教えを受け入れました。それは、愛する天父はどの時代にもご自分の子供たちに真理を伝えてくださるはずだと信じていたからです。

バプテスマを受けたあと、友人から反対されたこともありましたが、福音を受け入れようと受け入れまいと関係なく、彼女は人々を愛し続け、大勢の人々との友情を培ってきました。彼女は、後にイギリスでの伝道を通してたくさんの霊的な経験をしました。それは今なお彼女に影響を及ぼしています。

若者にとってのチャレンジ

オエイラスの18歳になるカーラ・ドゥアルテ・フィジェルドは、ヨーロッパの若い末日聖徒にとって教会の標準を貫き通した生活をするのは大変なことであると言っています。カーラは生まれはローデシア（現在のジンバブエ）ですが、人生の3分の1をポルトガルで過ごしています。また母親の仕事の関係で、6年間スペインで暮らしたこともあります。（彼女の両親は離婚しています）赤毛でいつも笑顔を絶やさないカーラは、英語、スペイン語、ポルトガル語を話すことができます。

「教会員として生活していくには、相当な努力がいります。」彼女はこう話しています。若者たちはアルコールや麻薬、不道德といった十代に共通の誘惑に直面しているだけでなく、霊的な標準を鼻であしらわれたり、敵意を持たれることさえあるのです。「知恵の言葉は自分のためになるものですから、従うのは当然だと思います。」カーラはこうに言っています。友人や知人にその理由を尋ねられた場合には説明をするのですが、皆「すぐに耳を閉ざしてしまいます。」

ポルトの15歳になるカルロス・テキセイラは、教会のいろいろな活動が、忠実な末日聖徒の若者たちの心を引きつけ、教会員でない友人たちにもそれに参加する機会を提供していると言っています。スポーツのほかにダンスや劇なども人気があります。雨の土曜日に行なわれる卓球の試合

には、数は少ないですが、熱心な選手や観客がステーキ部センターに集まってきます。(大きな家を改造したその建物は有効に使われています。ほかの部屋ではバプテスマ会が行なわれ、2階の部屋ではワード部の扶助協会の活動計画会が行なわれたりします)カルロスは、ポルトの教会員は皆「兄弟姉妹に真理を伝えるために熱心に努力している」と話しています。

ポルトガルで伝道中の宣教師の40パーセントはポルトガル人かブラジル人です。ポルトガルの若者たちは伝道の召しに実によくこたえています。しかしそれには大きな犠牲が伴っています。兵役の義務のために、伝道期間を短縮せざるを得ない場合もあります。また大学では宗教活動のための学業中断は歓迎されず、再入学は困難です。そのような犠牲があるにもかかわらず、ホセ・テキセイラはこう語っています。「伝道に行く道を選んだ私の決意は間違っていないでした。伝道は私の教会員としての生活の土台となりました。」それはまた指導者としての土台でもありました。彼は現在ポルトガル・リスボンステーキ部の第一副ステーキ部長をしています。ポルトガルの教会はどこも一樣に若い帰還宣教師の力によって支えられています。

1,800人もの会員を抱えるセツバルステーキ部では、常時20人の若者が伝道に出ています。セツバルは、リスボンから南へ45分ほど行った港町です。この地方の支部は広い地域に散在しています。しかし地方部長のオクタビオ・ダ・シルバ・メロは、「ここでの伝道活動はうまくいっています。会員の手助けのおかげです」と語っています。この地方部では、1986年中に、ポルトガル全土の会員数の20パーセントにあたる380人ものバプテスマがありました。

メロ地方部長は、「ポルトガルでは教会が大きく発展しています。人々は善良ですし、福音を知れば、心を開いて受け入れ、神の教えがもたらす喜びを理解できる人がたくさん備えられている」と語っています。

この伝道の精神は、リスボンから北へ3時間ほど行った所にあるコインブラの町でも見ることができます。丘陵地帯に広がるコインブラは、ローマ時代にまでさかのぼる古い歴史を持ち、今もなお発展を続けている町です。町の中央には、狭い路地や大通りへと続く古い曲がりくねった道が縦横に走っています。町の中を流れるマンデゴ川からは階段状にビルが建ち並んでいます。コインブラは学問の町として人々に知られています。コインブラにある大学の中

には、1290年代に建てられたものもあります。この町は、宗教的には伝統的な色彩の強い町ですが、それでも末日聖徒イエス・キリスト教会の4つの支部があり、会員も450人ほどいます。

「私は宣教師の手伝いが大好きです。ほかの人たちにも福音を知ってもらいたいし、幸せになってもらいたいです。」こう言っているのはイレーネ・マルキスです。体は小柄でも非常に活動的な彼女は、市場で衣服を売るジブシーです。指にはめたいくつかの銀色の指輪の中には、手伝いをした宣教師からもらったCTRの指輪も光っています。家族の反対があつて教会に入れなかった数年間、彼女は一生懸命ほかの人々を宣教師に紹介し、福音を伝えました。旧友でコインブラ地方部長のホアキン・ホセ・ダ・シルバ・アイレスから3年前にバプテスマを受けてからも、彼女は絶えずこの伝道精神を持ち続けてきました。

アイレス地方部長は親しみやすい人柄の、絶えず人々に真実の愛を示す素晴らしい人です。しかし末日聖徒の宣教師に出会ったころの彼は、無神論者の家庭で育った懐疑論者でした。宣教師たちはまず彼の妻ドミチラに会いました。彼女は宣教師たちに、夫は彼らのメッセージを受け入れないだろうと忠告しました。そこで宣教師たちは、宗教の話を抜きにして3度ほど彼の家を訪問し、彼をよく知るよう努めました。しばらくたって、彼の方から何を望んでいるのかと宣教師たちに尋ねてきました。聞いていたとおり、彼は福音には興味を示しませんでした。妻へのレッスンには反対しませんでした。しかし、3回目のレッスンのときに、彼は福音のメッセージに心を動かされ、1977年7月に妻と共にバプテスマを受けたのです。

ポルトガルにおける最初の夫婦宣教師

アイレス兄弟姉妹は、1984年にポルトガル人最初の夫婦宣教師に召されました。豊かな人生経験と語学力を備えたふたりは、若い宣教師に負けないくらいの力を持っています。ふたりはまたポルトガルの社会や文化にもよく通じていて、特に既婚者が相手の場合は大きな力を発揮しました。

アイレス夫妻は、コインブラの、ある近代的なビルに住んでいます。(都会のポルトガル人たちは、たいていそのようなアパートに住んでいます。一戸建ての家を持ったり、借りたりする人はあまりいません)建物の裏側にある車庫



1



2



3



4



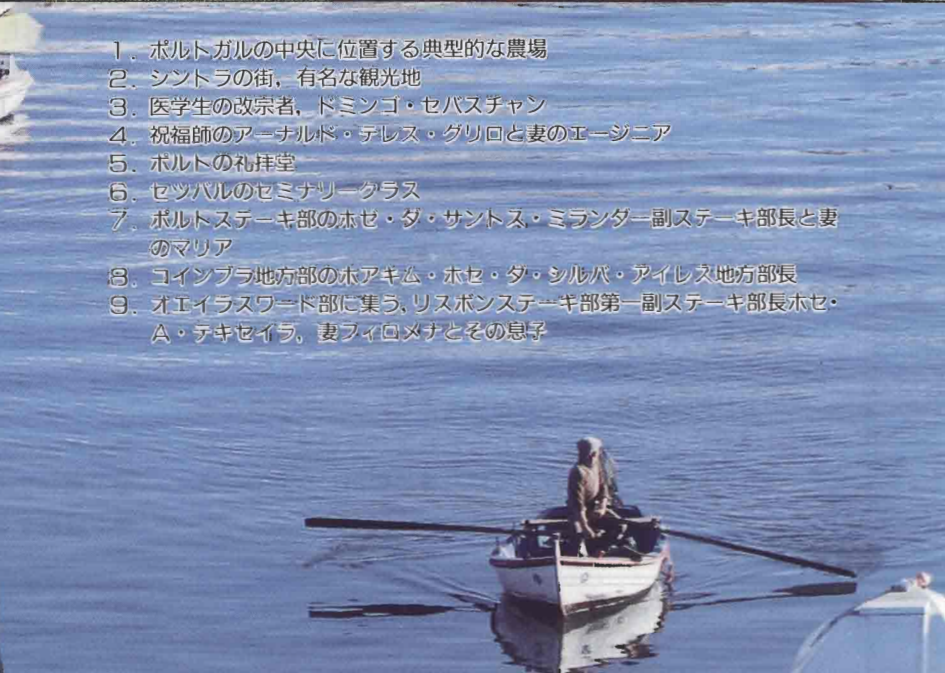
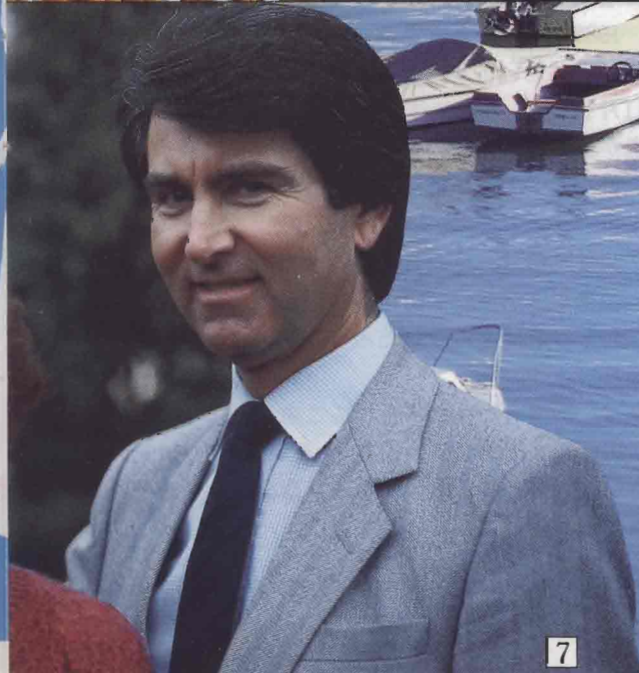
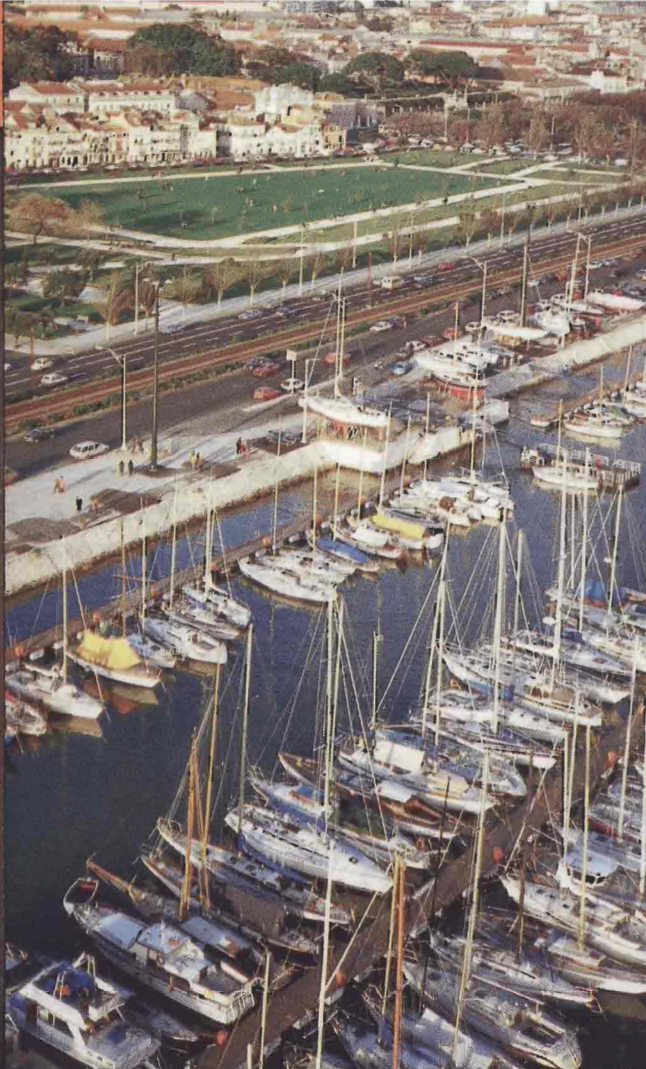
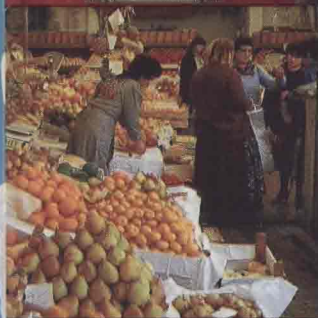
5



6



9



1. ポルトガルの中央に位置する典型的な農場
2. シントラの街、有名な観光地
3. 医学生の改宗者、ドミンゴ・セバスチャン
4. 祝福師のアーナルド・テレス・グリロと妻のエージニア
5. ポルトの礼拝堂
6. セツバルのセミナリークラス
7. ポルトステーキ部のホセ・ダ・サントス・ミランダー副ステーキ部長と妻のマリア
8. コインブラ地方部のホアキム・ホセ・ダ・シルバ・アイルス地方部長
9. オエイラスワード部に集う、リスボンステーキ部第一副ステーキ部長ホセ・A・テキセイラ、妻フィロメナとその息子

用の空き地には、物置きや鳥小屋が置かれています。

アイレス兄弟姉妹は、ポルトガルの植民地であったアフリカのモザンビークで24年間生活していました。彼らもファロのカブラル家、ボルチマオのシマオ一家そしてセツバルのメロ地方部長と同じように、1970年代半ばの植民地独立に伴いアフリカを去って故国ポルトガルに戻ってきた引き揚げ者だったのです。

かつて植民地に住んでいた人たちの中から多くの改宗者が出ています。教会はこの傾向に対して、アフリカからの引き揚げ者たちは比較的思考方が新しいという見方をしています。彼らは、生活が大きく変化し、引き揚げ時にほとんどの財産を手放してきているために、精神的に非常に謙遜になっているのです。

ポルトガル・リスボンステーキ部の祝福師アーナルド・テレス・グリロは、「何もかも失いました。でもそれで良かったのです」と語っています。

アンゴラで銀行業についていたとき、彼は家を4軒と車を数台持っていました。しかし現在は、妻のエージニアとリスボン郊外の小さなアパートに住んでいます。アフリカの記念として残っているのは、部屋の片隅にあるわずかな美術品と、かつてはたくさんあった立派な蔵書の一部だけです。「アフリカから戻って来たばかりのときは、失ったものがあまりに多すぎてとても苦しい生活でした。」テレス・グリロ兄弟はこう語っています。そして彼はそうした状況があったからこそ、宣教師から福音を聞いたときに、永遠の祝福がいかに大切なものかを真剣に考えられたのだと言っています。

「少しも犠牲ではありません」

テレス・グリロ兄弟と姉妹は1977年にバプテスマを受け、その後スイス神殿で結び固めを受けています。彼は今、ポルトガルに神殿が建てられる日を夢見ています。費用と長旅の大変さを考えると、ポルトガルの聖徒たちにとって、スイス神殿で執行される神聖な儀式にあずかるのはなかなか大変なことです。神殿までは2,500キロもあり、バスで行くとまる2日もかかるのです。

「でも目的地に着いて神殿が見えると、少しも犠牲などとは思いませんし、長旅の疲れもとれてしまいます。」テレス・グリロ兄弟はそのときの気持ちを思い出しながらこう語ってくれました。

このような状況にありながら、神殿参入を何よりも大切な目標として頑張っている人々もいます。ポルト第一ワード部のアドリアーノとアナ・マリア・バロ夫妻は、1985年に神殿で結婚しました。婚約中、彼らは「神殿結婚」と書いた貯金箱を用意し、旅費を毎日ためていました。ところが、結婚式の1カ月前に彼女の方が失業してしまい、神殿に行く費用も結婚費用も足りなくなりそうでした。ふたりは市民結婚だけでもまんするよりは、結婚を先に延ばすことを考えました。しかしふたりは信仰によって問題を克服し、神殿に行くことができたのです。ふたりは、経済的には決して楽ではないが、必要なものには恵まれていると話しています。

大人たちの神殿に対する真剣な考え方は、若い教会員たちにも大きな影響を与えています。ポルトステーキ部には、死者のためのバプテスマを受けに神殿に行く費用をためている青少年もいます。そしてバロ夫妻のように、多くの若人が神殿結婚以外にはどのような結婚もあり得ないと考えているのです。

国中の至る所で、小さな事柄の中に福音の力を感じとることができます。リスボンステーキ部のオエイラスワード部のレメ監督は、このように言っています。「ポルトガルの国自体が変わってきているように思えます。教会の力はまだ微々たるものですが、主がこの国の人々に特に力を注いでくださっていることは確かです。」

12年前に奉献の祈りの中でモンソン副管長が嘆願したように、教会は着実に発展を続けていますが、ポルトガルの聖徒たちは、1986年にそのことを再確認する言葉を聞いて感謝の念を新たにしています。ポルトステーキ部が組織された1986年11月2日に、十二使徒評議員会のラッセル・M・ネルソン長老が会員たちを前にして、ポルトガルにやがてたくさんの伝道部、ステーキ部が設立される時が来るであろうと話したのです。

テレス・グリロ兄弟は、その日が来る前にポルトガルの末日聖徒は、福音が広がるのを阻止しようとするサタンの力に立ち向かわなければならないだろうと述べた後で、次のように言っています。

「しかし私は、指導者たちが予言してこられたように、教会が国中に広がると確信しています。」テレス・グリロ兄弟と同じように、大勢のポルトガルの末日聖徒は、その予言が成就する日を心待ちにしています。□

——末日の女性——

ルビアン・セクイ

ジャン・アンダーウッド・ピンボロー



世の女性たちがしている仕事の多くは、どれもみな目立たない地味なものばかりです。病気の赤ちゃんを一晩中抱きかかえてあやしてあげること、1日に食べる分のお米を計ること、悲しむ友人に慰めの言葉をかけること。霊と肉体のふたつを養うこれらの仕事は、実につましい仕事です。決して人々の耳目を引きつける、目立つものではありません。

このような働きをしている多くの女性たちが、次の主のみ言葉に共鳴したとしても不思議ではありません。主はこのように言われました。「だれでも一ばん先に

なろうと思うならば、一ばんあとになり、みんなに仕える者とならねばならない。」(マルコ9:35) もしこのような女性たちが福音を知ったなら、その喜びと、人々を祝福しようとする力はさらに増し加えられていくことでしょう。

8年前、スペンサー・W・キンボール大管長は、この最後の神権時代の王国における女性の役割を強調し、次のように言われました。

「この末日に当教会において驚くべき発展が見られますが、その多くは世の立派な(優れた霊性を備えている)女性たちが、大勢この教会に入ってくるおかげ

であると言えるでしょう。……こういった女性たちは真の謙遜さを身につけています。その謙遜さたるや、華々しいものではありませんが、実に完全の域に近いものと言えます。」(『義なる女性の役割』「聖徒の道」1980年3月号, pp.142-43)

では、教会に入って、教会をさらに強めていく謙虚さ、霊性、高潔な人格を身につけたこの善良な女性とはだれのことでしょうか。それは、主の声を聞き、真心を尽くして主に仕えようとしている、世界中にいる女性たちです。今後何回かにわたり、「聖徒の道」ではそのような女性たちを紹介していきたいと思います。



ルビアン・セクイ姉妹と夫のフェリックスは1972年に結婚し、1980年に改宗した。



ルビアン・セクイ——ドミニカ共和国で光を広める人

ルビアン・セクイ姉妹の家の中庭で読み書きを学んでいる25人の子供たちは、家庭が貧しくて教材や制服、靴をそろえることができず、公立の学校に行くことができない子供たちです。家にはベッドもなく、土間に段ボールの箱を置き、その中で寝起きをしている子供もいます。

セクイ姉妹は人々の心に温かさと安らぎを感じさせる笑顔をしたえた、小柄なやさしい女性です。黒板には彼女の字でこう書かれています。

「Dios Me Ama (神は我を愛す)」
セクイ姉妹は生徒たちに読み書きや算数、社会、理科、礼儀を教える傍

ら、祈りと聖書からの話で毎日のレッスンを始めています。彼女はまた子供たちに、家族と一緒に祈るように勧めています。セクイ姉妹は、金銭的な余裕のない子供たちには鉛筆やノート、チョークなども分け与えています。また視覚教材をふんだんに取り入れて、子供たちが学びやすいように工夫しています。セクイ姉妹の教え子は皆、サント・ドミンゴの町で出会った子供たちです。「町でだれにもかまってもらえないような、汚い格好のはだしの子供を見かけると、すぐ『いらっしやい、こわがなくていいのよ。家はどこ?』と声をかけてしまうんです。」それから彼女は自分のクラスに入れてもよいかどうか許可をもらいに、その子と一緒に家に行くのです。

月に1度、彼女は両親を夕べの会に招待し、子供たちの成長ぶりを見もらうようにしています。そのときには、親たちが霊的にまた道徳的に高められるような話をするようにしています。「親が子供たちをもっとよく教え、導くことができるように指導することが私たちのねらいなのです。」セクイ姉妹は改宗させることを目的としているわけではありませんが、子供が彼女のクラスに来てからバプテスマ

マを受けた家族もいます。

セクイ姉妹は大学で初等教育の学位を取得しており、公立学校で24年間も教鞭をとってきました。看護婦としてまたソーシャルワーカーとしても活躍してきています。「私自身は欠点だらけの人間ですが、ほかの人々、特に貧しい人々を見るとじっとしていられなくなるんです。」

カトリック教会の会員だったころ、彼女はよくろばに乗って田舎に出向き、人々に衣服を持って行ってあげたり、福音を伝えたりしたことがあります。

看護婦として働いた経験もまた彼女に大きな影響を与えています。「病院というのは、人々の愛や苦しみがよく感じられるところです。私は病院で人を愛することを学びました。患者の世話をするたびに、『もしこの人がイエス様ならどんなお世話をするだろうか』と自分に問いかけるようにしていました。いつもそのことを忘れずに、不安や不快感、悲しみを顔に出さず、一人一人の中に主のみ姿を見ながら病人を愛するように努めてきました。」

1961年、ルビアン・セクイは、より良い生活を営むための技術を若い女性に教える職業訓練学校を創設しました。彼女はいまなお、その学校の管理をしています。300人以上もの生徒が裁縫や仕立て、菓子づくり、織り物、そのほかの手仕事を学んでいます。この学校は、生徒が支払い能力に応じて納めるわずかな授業料でまかなわれています。

セクイ姉妹と夫のフェリックスは1972年に結婚し、1980年にバプテスマを受けました。ふたりが教会を知ったのは、姉妹宣教師たちが開いた福祉フェアを通してでした。彼女は当時を振り返ってこう言っています。「私はまず家族を大切にするという点に、そして福音はすべての人々に伝えられなければならないという考え方に引きつけられました。」それ以来

彼女はずっと扶助協会会長の責任を果たしてきました。彼女の夫は、ドミニカ共和国の教会教育部の部長をしています。セクイ夫妻はひとりの娘を亡くしていますが、15歳の男の子と12歳になる女の子がいます。12歳の娘はよく母親の仕事を手伝います。

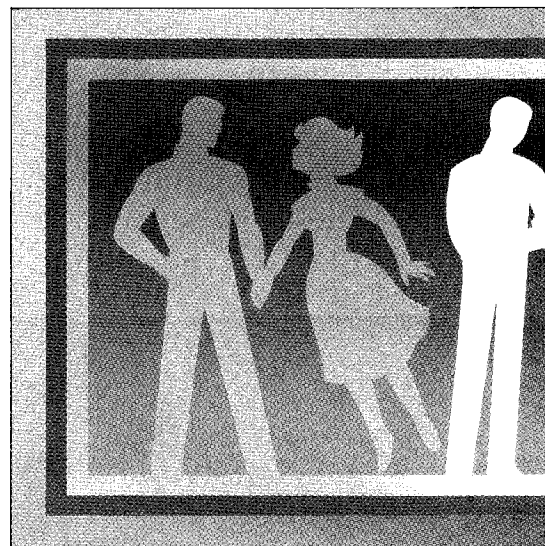
現在、ルビアン・セクイは、衣料品店を開くための準備をしています。1週間に1度、昼に教会の姉妹たちを集ってもらい、地元の団体から寄付された端切れで服を縫ってもらうのが彼女の夢です。そうして教会内外を問わず、貧しい人々に衣服を分けてあげたいと考えているのです。彼女のもうひとつの願いは、重度の障害児が治療を受けながら生活できる施設を建てることです。

セクイ姉妹は、地上での彼女の目的はまず自分の家族のために、そして次に人々のためにたゆまず働き続けることであると言っています。彼女は自分の仕事を建物を建てることにたとえてこう言っています。「私の目標は、この世に家を建てることではありません。この世の物はすべて、いずれ朽ち果てていくものですからね。永遠に住むことになる天に家を建てるのが私の願いです。」彼女はまた、常に悔い改めをすることが必要であり、もしそうでないと自分の働きはむなしいものになってしまうと感じています。また主に対する信仰と希望を強めることは、自分自身の責任であると信じています。

6歳のジェフリー・メンテロと彼の小さなクラスメイトにとって、読み書きを教えてくれるこの美しい女性は、とても大切な人です。彼女がいなければ、より良い生活を築くためのすべを身につけることができないのです。しかしセクイ姉妹は、自分自身をごく普通の人間であると思っています。そして淡々とこう語るのです。「主はご自分の子供たちを使って人々に善をなされるのです。」□



自分のことしか考え 考えないような人の 人がいるでしょうか。



たのです。私がこうした態度を改めてからは、彼女の方もより率直に気持ちを打ち明けるようになりました。ほとんどの場合、人は助言よりも自分の話に耳を傾け、あるがままの自分を受け入れてくれる人を求めているのです。「人はすべて、聞くに早く、語るにおそく、怒るにおそくあるべきである。」(ヤコブ1:19)

人の話に耳を傾けるのが最もむずかしいのは、相手から怒りをぶつけられたときです。攻撃されると人は防衛的になり、怒りの原因を理解しようとするよりも「やり返そう」とする気持ちにかられます。自分よりも相手のことを考えているかどうかは、相手の気持ちや必要に心から耳を傾けているかどうかを考えればわかります。そのようにすれば、私たちはもっと人に注意を払うようになり、その人の必要としている援助を与えることができるようになるはずです。

しかし自己を捨てて聞き役に回ることには大変なことです。変わらなければなら

私 はよく次のような質問を受けます。「わがままが結婚生活におけるトラブルの大きな原因になっていますが、自分の必要は後回しにして、常に伴侶のことを先に考えなければならないのでしょうか。どんなときも常に相手の必要を最優先にすべきでしょうか。」

自分自身の必要と伴侶の必要をバランスよく保つ方法はたくさんあります。てんびん的一端が、もし「人のことを考えずに自分の必要だけを考える」ということであれば、もう一端は「自分のことを考えずに人の必要だけを考える」ということになるでしょう。しかし、結婚カウンセラーとしての私の体験から言えることは、そのどちらの考え方にも霊的、社会的問題がひそんでいるということです。

自分のことしか考えず、常に自分が正しいと思い、自分のしたいことだけをしていなければ気がすまない人、他人のことなどまったく考えないような人のそばにいたいと思う人がいるのでしょうか。そのような人は、一方的に話すだけで、人の話を聞く耳を持っていません。そして相手の気持ちなどおかまいなしに「援助」を申し出はするものの、結局は口先だけで、肝心な助けを与えようとはしません。

反対に、せっかく人を喜ばせようとしながら、利己的にならないようにと神経を使いすぎて、疲れ果ててしまう人もいます。この種の人々は、自分のことはいつも後回しにして、家族や教会の召し、また隣人や友人のために働き続けています。しかしどんなに強い人でもほかの人々から力をもらわなければならないときがあるのです。

相手の望んでいるものは何か

私たちは人を助ける際に、何をすべきかということよりも、その人が何を望んでいるかということに心を向けなければなりません。たとえば、私が自分はいいと思ってキャンディーを1箱妻に贈っても、彼女はそれをダイエットの妨げと考えるかもしれません。また夫の家

事の手伝いにしても、それを感謝する女性もいれば、自分の仕事のじゃまと考える女性もいるのです。

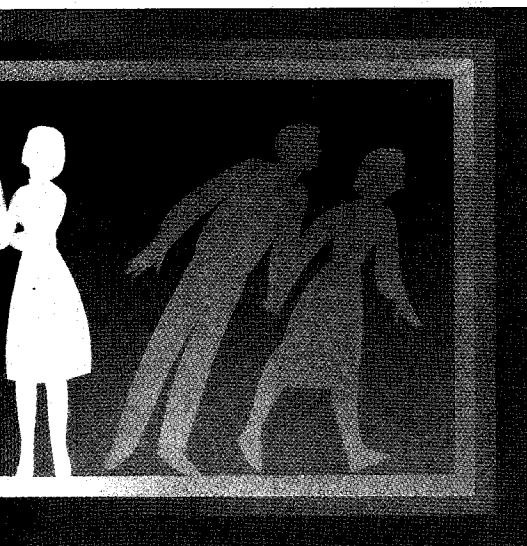
ではどうしたら伴侶が本当に望んでいることがわかるのでしょうか。不機嫌な様子や感情を察したら、こう尋ねてみるのもいいでしょう。「何か困って(イライラして、心配して) いるようだね。ぼくでよかったら話してごらん。」そして助言や非難の言葉をさはらずに、ひたすら耳を傾けるのです。ここでは相手の気持ちを知ることが第一なのです。伴侶の気持ちや関心事をよく理解するには、相手から聞いたことをもう一度自分なりの言葉で繰り返してみることです。

ここで気をつけなければならないことがあります。それは、人に関心を示すのは口で言うほど簡単ではないということです。私の場合ですと、妻が何か相談したいと思っているときに、自分の心配事で妻の話に耳を傾ける余裕がないということがよくあります。またとても疲れていたり、反対に話を聞いてほしいような状態のときもたびたびあります。そのようなときは、自分の悩みで精一杯で妻の話聞くところではないという思いが頭をもたげることもあり、その気持ちと戦わなければならなくなります。またいい加減に聞き流してしまいそうになる気持ちを正したり、大好きなテレビ番組を犠牲にしなければならない場合もあります。人のために奉仕する機会が自分の都合のいいときにやって来ることはめったにありません。しかしこのような機会、結婚生活の絆を強いの^{きずな}にしてくれます。

人は話を聞いてくれる人を求めている

私は、妻の涙を不快に感じ、「泣くな。大したことじゃないよ」と口走ってしまったことがあります。彼女の心の痛みを考えずに、自分の不快感を表わしただけのその返答は、彼女の気持ちをまったく無視したものでした。本心でなかったとはいえ、私は胸の内を知ってほしいという彼女の気持ちに全然こたえていなかった

ず、他人のことなど そばにいたいと思う



ないのが自分自身であったり、自分の内面に嫌なところがあるのに気づいたりするとなおさらです。私は妻にこう言われたことがあります。「何か意見の食い違いがあつてふたりで話しても、最後にはとてもばかにされたような気になるの。」私はそう言われて非常に気分を害し、すかさず「悪いのは君の方だ」と反論しました。しかし、しばらくして、私は確かに妻に言われたとおりのことをしている自分に気づいたのです。心の痛みを抑えながら、私は彼女の言葉に耳を傾けました。それ以来ふたりの関係は大きく変わりました。主は私たちが「親切と淨き知識」(教義と聖約121:42)とを持って行動すれば、より大いなる者となると約束してくださっています。

必要とあらば、激しい不平不満の本当の原因となっている不安に目を向け、批判的な言葉の陰に隠れた焦燥感にも耳を傾けなければなりません。そうしなければ、話し合いも問題解決もできないので

す。

問題から逃げる

「面倒なことにはかかわりたくない」とばかりに、相手が問題としていることから逃げようとするのは、利己心の現われとして最もよくないことのひとつです。逃げ場所は新聞の陰であったり、仕事や教会の責任であったり、ふたりにとって大切な問題には触れず関係ないことをしゃべりまくるなどいろいろです。私は、自分のことを忘れて妻の喜びや痛みを理解しようと努力するなら、人生において最も実り豊かなひと時を持てるということを経験を通して、愛とは「自分の利益を求めない(で)……真理を喜ぶ」(I コリント13:5-6)ことであると学びました。

では自分が精神的に疲れていて、人の必要に心を向け、満たすだけの余裕がない場合はどうでしょうか。次の3つのことを頭に入れておいてください。(1)相手の必要としていること、(2)そのときのあなた自身の限界、(3)あなたの必要としていること。これらはいずれも大切なことです。

例をあげてみましょう。最近、4日間にわたるスカウトのキャンプから戻って来たばかりの私に、妻が話があると言ってきました。私はとても疲れていて、何事にも精神を集中できないような状態でした。眠りにつくまでの間だけでも話を聞いてあげられたかもしれません。疲れていて眠りたいのを理解してくれない妻に不平を言うこともできたかもしれませんが。しかし私は彼女に、話をしたいという気持ちはよくわかるが、疲れ過ぎて十分に聞いてあげられないことを率直に伝えました。そして翌日特別に時間を設けることに決めたのです。

できない場合はそのことをはっきり伝える

人から援助を求められても、これ以上

の重荷は負いきれないというときがあります。そのような場合ははっきりと断わるべきでしょう。そういう場合でも、その人の必要を認め、その時点でのこちらの限界を伝え、やさしく断わる必要があります。小さなことにこたえてあげられない自分自身を見て、ふがいなさを感じてしまう場合があるかもしれません。しかし私たちは、いつだれにでも手助けできるほどの力は持ち合わせていないことを自覚しておかなければなりません。大切なのは、ひとつのことを断わるのは、それ以上に重要なことを受け入れるためだということです。私たちはそれをはっきりと理解しておく必要があります。ベンジャミン王は次のように言っています。「お前たちが……分け与えることを望む。それは……必要に従って肉体についても霊についても救助を施すことである。

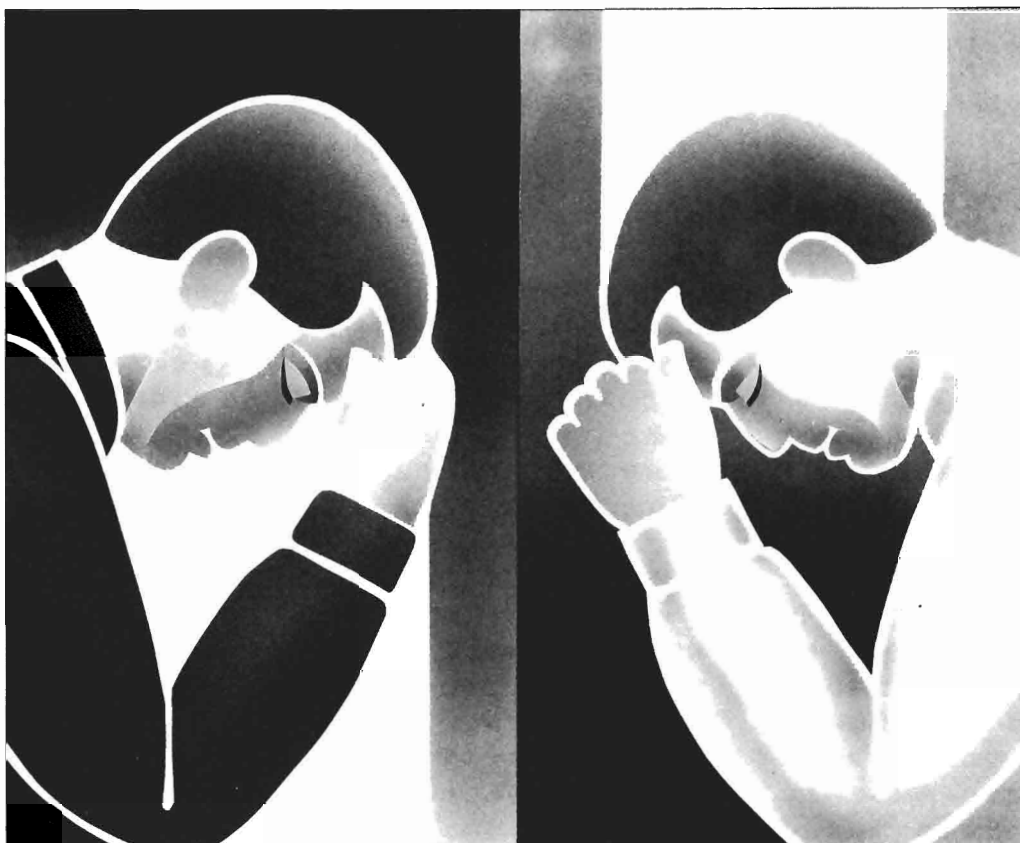
お前たちは注意してすべてこれらのことが賢く秩序正しく行われるようにせよ。人がその力以上のことをするのはぜひ必要ではない。」(モーサヤ4:26-27)

自分さえよければよいという風潮のこの世の中には、「自分自身の成長」のためとか、仕事あるいは「もっと大切な」人間関係があると言って、家族をないがしろにしている人が大勢います。霊的な導きを受けて、破壊的な関係に終止符を打たなければならないような例もいくつかあります。利己的な風潮に流されて、結婚や家族という永遠の観点から見た自己達成や進歩のためのすばらしい機会を逃している人があまりにも多くいます。人のために自己を捨てることを教えてくれる最良の場は家庭です。究極的な自己達成は、愛と思いやりを通してしか手にすることができないのです。□

* スティーブ・F・ギリランド：結婚カウンセラー、カリフォルニアロングビーチワード部スカウトマスター、ロングビーチ州立大学隣接のインスティテュート部長。

みたまと 自由意志

管理監督会第二副監督：グレン・L・ペイス



真理を心から願い求める人は、人間の知恵
とみたまのささやきとの間の正しい関係
を理解していなければなりません。

みたまを求めずに自分の知恵だけに頼ろうとする人、あるいは逆に、自分で努力して知恵を働かせようとせず、みたまの導きだけを求めている人は、どのようにすればそうした状態を改められるのでしょうか。

オリヴァ・カウドリがモルモン経の翻訳に失敗したとき、主は彼に深遠な啓示を与えられました。読者の中にもこの啓示についてよく知っている方が大勢おられることでしょう。

「見よ、^{なんじ}汝はまだ悟らず。汝はひたすらわれに願ひし時はこれを与えらるるならんと思えり。

されど見よ、われ汝に告ぐ、汝心の中によく思い計り、その後願うこともし正しからば汝願わざるべからず。願うこと正しからば、その時われ汝の心を内に燃やさん。これによりて汝にその正しきを感じしむ。

されどもし願うところ正しからずば、かかる感なくして汝の心は次第に鈍くな……らん。」(教義と聖約9：7-9)

ブルース・R・マッゴンキー長老はこれを、私たちに次のような責任があることを意味している、と述べています。

「(私たちは) 目指す目標を達成するために最善を尽くす……のである。そのとき、私たちは与えられている自由意志を使う。また、望みをかなえるために、与えられているあらゆる力、能力、才能を使うのである。……これは自由意志と靈感のバランスがとれているよい例である。」(『自由意志か、靈感か』「聖徒の道」1978年5月号, pp.33, 35)

十二使徒定員会会長のマリオン・G・ロムニー長老は、このふたつの間のバランスをどのように学んだか、次のように述べています。

「私は問題に直面したら、まず祈りの気持ちをもっていろいろな解決策を頭の中で思い巡らす。そしてその中で最良のものを選ぶ。次に、祈りによってその問題を主に差し出し、正しい選択をしたいことを告げ、さらに自分が正しいと判断した事柄を告げる。そして、もし私の判断が正しければ、かつてオリヴァ・カウドリに約束されたように胸の内を燃やしてくださいとお願いする。……主のみたまによってもたらされる靈感と靈感によらない自己の望みや希望との区別をはっきり知ることができれば、私たちは決して過ちを犯すことはないであろう。」(「ニューエラ」1975年10月, pp.34-35)

ではどのようにすれば、精一杯努力し、みたまの承諾を受ける資格が^{そな}具わったということがわかるのでしょうか。また実際にみたまの導きを受けたことをはっきりと確認できるようになるのでしょうか。以下にふたつの極端な例を紹介して、人の知恵とみたまの助けとの間の正しい関係について明らかにしてみたいと思います。

ふたつの極端な例

最初の極端な例として、まったく主に頼ることをしない

人があげられます。このようなタイプの人は学者によく見受けられますが、自分で自由に考えることを好み、絶対的な真理であってもそれに束縛されることを嫌います。また、その生活は知的なパズルを解いて過ごしているようなものです。教会幹部や地元の教会の指導者の勧告にもまったく耳を貸しません。

この正反対の考え方も別の意味で危険です。たぶん私たちは、こうしたとらえ方の方により注意しなければならないでしょう。このような考え方をする人は次のように思います。「私はこの教会が真実の教会であることを知っている。しかも、私は聖霊の賜を受けている。私は忠実な会員であるから、みたまの導きを受けることができる。」そしてこの人は問題に直面するとまず祈り、最初に心に浮かんだ考えをみたまの導きであると考えます。しかし、よく考えもしないで心に浮かんだ答えや解決法は、単なる思いつき以上のものではありません。ただちに答えが与えられる場合もありますが、それはごくまれであり、せつばつまった場合であることが普通です。十分考え尽くせなかったり、あるいは常識的な範囲で検討できなかった事柄に対して、「よい気持ちを感じた」という理由だけで正しい方法だと決めつけてしまうのは、往々にして悪い結果をもたらすものです。

以上のふたつの極端な例を心に留めたうえで、私たちがどのようにして霊的な力と自分の能力との関係を正しく保っていくことができるのか、いくつかの具体例をあげて話したいと思います。

まったく同じ勧告

7年ほど前、私は教会の福祉事業部で新任の部長として働いていました。そのころ教会は福祉プログラムの歴史的転換を迫られていました。世界の情勢に照らして、プログラムを入念に再検討する必要があったのです。私は非常に心を悩ませ、それに没頭していました。

導きを求めて祈った後、あるすばらしい考えが心に浮かびました。私は教会の幹部に面会する必要があると思いました。そしてその席で、私は自分の考えてきたことをすべて話し、この問題について新しい啓示が必要な時期に来ていると思うとつけ加えました。それからいすに座り、メモ帳を片手に幹部の靈感された答えを待ちました。

しかし、幹部のどれからも私が期待していたような答えは得られませんでした。その代わりに全員がまったく同じことを私に言われたのです。「ペイス兄弟、あなたのおっしゃるとおりです。私たちには新しい啓示が必要です。あなたがそれを受けてください。」私は教会幹部に提出する案をまとめるために、さらに一生懸命勉強し、いろいろ調べ、熟考を重ねなければなりませんでした。

真理を得るための偉大な方法

勉強と思索は私たちに対する主のみこころを知るうえで欠かせないものですが、そういった人間の知恵や五感よりも偉大で確実な方法があります。真理を知るためのあらゆる方法の中で最もすばらしい方法は、天からもたらされる直接の啓示です。

救いに至るモルモン経の証は、歴史学上、あるいは考古学上の華々しい発見によっては決して得られません。私たちの証が、聖典からでなく、物証や歴史的な証明によってもたらされるものであるなら、主はモロナイに金版を託し私たちのもとに直接送られたことでしょう。

私が、自分の宣教師時代にもっとも恐れた質問は、次のようなものでした。「現在金版はどこにあるのですか。」私たちが「天使が持ち帰りました」と答えると、彼らは決まって、やっぱりそんなことか、という顔をしました。当時の私は、現在私が知っている事柄を理解してはいませんでした。たとえ今、専門家たちがこの金版を手に取り、議論し、内容を調べることができたとしても、依然として様々な意見の対立を見ることでしょう。たとえ私と同僚が天使モロナイを伴って一軒一軒戸別訪問することができたとしても、それによって福音を受け入れる人の数が増えることはなかったでしょう。だれでもみたまの示しによらなければ、天使モロナイを受け入れることはできないのです。ましてや私たちの言葉を信じることなどできなかったでしょう。

マーテン・ハリスが金版を見たいと願ったとき、主がジョセフ・スミスに言われたことを思い出してみましょう。
「見よ、世の人々もしわが言を信ぜずば、たとえわが汝に委ねたるすべてのものを彼らに示し得たりとすとも、彼らは汝すなわちわが僕なるジョセフを信ずる心なかるべし。」
(教義と聖約 5 : 7)

モロナイ書10章3－5節でモロナイが私たちに与えてくれた約束以外に証を得る方法はありません。ほかの方法では無理なのです。聖霊からの証は普通それを受ける準備のできた人々に与えられます。それは信仰を試すためではな

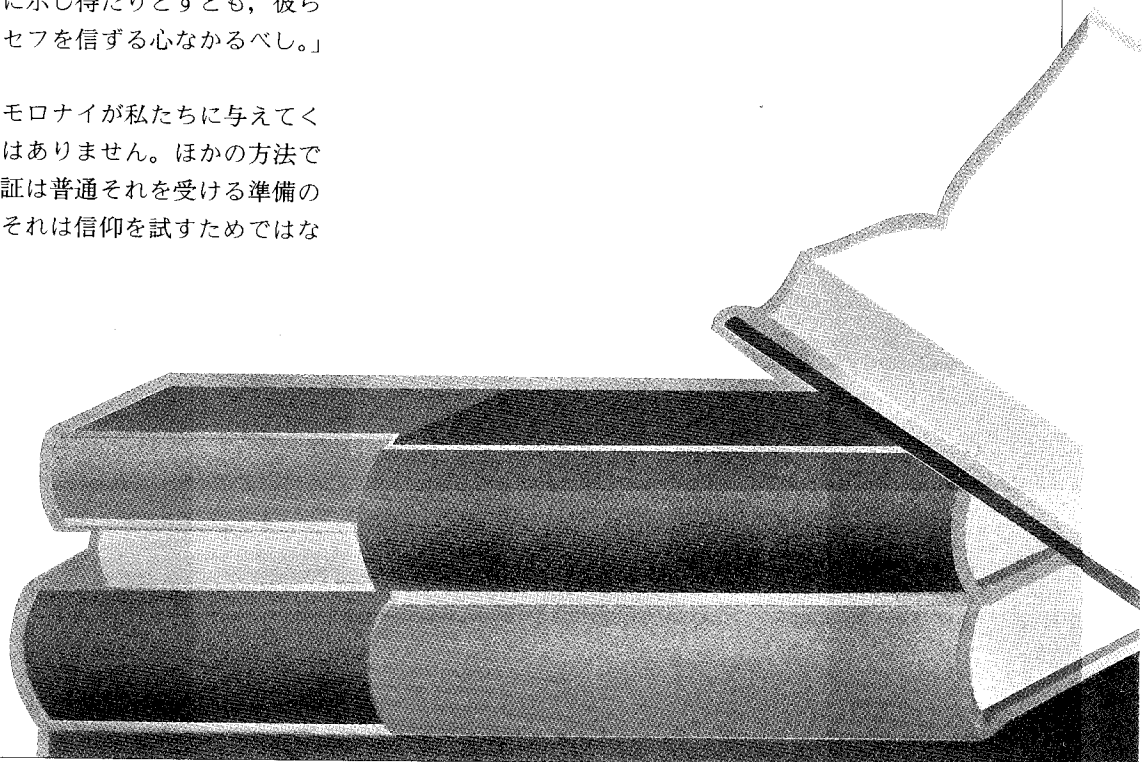
く、神聖なみたまの現われが軽んじられることのないようにするためです。

実際に天からの証拠を見たからといって、その人の心が変わるわけではありません。レーマンやレミュエルは何度となく奇跡的な示しを受けています。「そして、この使は私たちにこう語り終って立ち去った。

ところが、この使が立ち去ってから、レーマンとレミュエルはまたも不平を鳴らし始め『どうして主がわれわれの手にレーバンを引き渡すことができようか。レーバンは有力な人で五十人を指揮することができる、いや五十人を殺すことさえもできる。それならば、どうしてわれわれを殺せないわけがあらうか』と言った。」(I ニーファイ 3 : 30－31)

ニーファイは兄たちがなぜこのように言うのか信じられませんでした。「また一人の天使があなたたちに語ったことも知っている。それでいて、あなたたちはどうして疑うことができるか。」(I ニーファイ 4 : 3) 私たちは、みたまを伴わない知識が永遠の価値を持たない具体例を、ここに見ることができます。

ニーファイはレーマンとレミュエルの問題を次のように指摘しています。「あなたたちは悪事をするのは早いけれども、あなたたちの神である主を思い起すのはおそい。あなたたちは、これまでに一人の天使を見、天使はまたあなた





勉

神と恩恵は、私たちに対する主の
おこころを知るうえで欠かせない
もののだが、そういった人間の知恵や
感よりも偉大で確実な方法があります。
――それは、天からもたらされる西暦の
啓示です。

たちに言葉をかけた。まことにあなたたちはその御声を時々聞いている。その時それは静な細い声で話したもうたが、あなたたちはなんらの感じもなかったなのでその御声を感ずることができなかった。」(I ニーファイ17:45)

忍耐が必要です

みたまのささやきを理解できるように努めなければ、サタンは様々な方法で徹底的に私たちを惑わそうとします。ではどのようにすればみたまの導きを確実に理解することができるようになるのでしょうか。

まず第1に、期待していたとおりに答えを受けられなかったからといって、自分にはその資格がないなどと思わないことです。そのときはみたまを受けたと思っていたのに、後がうまくいなくて、結局思い違いだったという経験はないのでしょうか。その反対に、後で思い返すと確かにみたまの導きを受けていたはずなのに、そのときは見過ごしてしまったということもあるでしょう。スキーなら忍耐強く練習するのに、みたまを識別する場合にはそれができないようです。ゲレンデならころんでもすぐ立ち上がるし、がっかりすることなく何度でも挑戦します。しかし、一度でもみたまの導きを見分けることができないと、罪悪感に陥り、努力することをやめてしまいます。霊的な体験はそれほど簡単にできるものではないのです。大丈夫、気を落とさずに努力を続けてください。

プロのスポーツ選手になるのにも、何年も練習を積み重ねなければなりません。まして一晩で霊的な体験ができるようになるはずがありません。

ジョセフ・スミスは次のように言っています。「人は啓示のみたまの最初のささやきを自覚しただけで祝福を受ける。たとえば聖い知識が心に流れ込むを感じたとき、あなたの方の心にはいろいろな考えが閃光のように次から次へと浮かんでくるだろう。そしてそれがその日のうちに、あるいは間もなく実現するのである。すなわち神のみたまによりあなたがたの心に示された事柄はそのとおりになる。そして神のみたまがどのようなものかを知り、理解するとき、あなたがたは啓示の原則を自分のものとして進歩し、やがてキリスト・イエスにあって完全な者になるであろう。」(「予言者ジョセフ・スミスの教え」p. 151)

特に、「あなたがたは啓示の原則を自分のものとして進歩し」という箇所に注意してください。バスケットボールで上達するには、数えきれないほどシュートの練習をします。こうして成功と失敗の体験を重ねながら、選手はボールが手を離れた瞬間、それがゴールに入るかどうか分かるほどの優れた能力を獲得するのです。

霊にかかわる事柄でも、それがみたまによってもたらされたのか、それともサタンが巧妙に忍び込ませたものなのか、単に私たちの心の中にある願いの現われなのか、はっ

きりと見分ける必要があります。皆さんの中で、ガールフレンドに向かって「君がぼくの結婚相手だという啓示を受けたよ」と言ったことのある人はどれくらいいるでしょうか。ときとしてそれが啓示ではなく、単なる願望でしかない場合があります。もしそのような気持ちを感じたら、次のようなテストをしてみるとよいでしょう。彼女に結婚を申し込むのです。もし彼女の答えが肯定的なものであれば、あなたは正しかったことになります。反対に答えが否定的なものであれば、あなたは間違っていたのです。しかし、あなたが感じた霊的な確信は心の中にとどめておいてください。彼女も自分自身のために啓示を受けることができるのですから。

みたまによって確認を受けるときにはどのような感じがするのでしょうか。それはモルモン経を読んでいるときに感じる気持ちと同じであり、両親や大切な友達と神聖な事柄について話をしているときに感じる気持ちと同じです。そのような気持ちを感じて、それに従えるように努力してください。

簡単でしかも確実に成功する方法があれば、皆さんにお話しているでしょう。しかし、私たちを取り巻く状況は刻々と変化しています。同じ方法でいつもうまくいくとは限りません。みたまをよく受けられる日もあれば、そうでない日もあります。ときには気持ちが落ち込みやすい日もあるでしょう。それでも、あらゆるものが変化する中でたったひとつ変わらないものがあります。みたまは真理だけを証するということです。

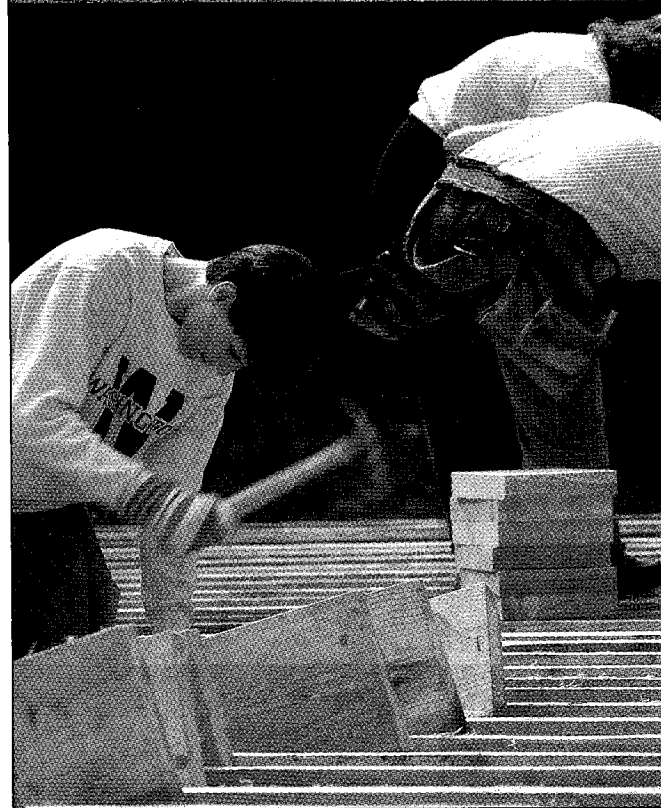
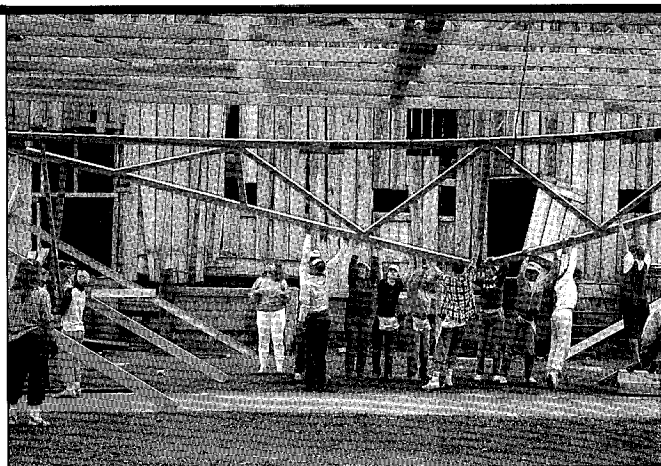
なかなかみたまを感じられないと言う人は、次のように自問してみてください。

1. 戒めに忠実に生活しているだろうか。
2. 聖典を学び、霊性を高めようとしているだろうか。
3. 真心から祈っているだろうか。
4. あらゆる努力を払い、十分に吟味した結論をもって、主に尋ねるようにしているだろうか。
5. 「心が次第に鈍くなる」ということがどのような意味か理解しているだろうか。
6. 「みこころが行なわれますように」と心から正直に願い、自分の望みどおりの答えが得られなくてもそれを受け入れるだけの心構えがあるだろうか。

霊に関して学ぶ時間を惜しんではなりません。セミナーやインスティテュートで学ぶことも大切です。しかし、私がここで言う「霊に関して学ぶ時間」とは、啓示を識別し、それを得る方法を身につけるための時間です。このためには一生努力が要求されます。しかし、祝福を受けるのにセミナーやインスティテュートのように卒業まで待つ必要はありません。自分の知識とみたまのささやきとの間に正しい関係を保とうと努力し始めるなら、ただちに報いが得られるでしょう。□

建築活動で 築いた証

ふたつの建物を造るには、チームワークだけでなくかなりの体力も要求されることが、ワシントン・レッドモンドステーキ部の青少年たちにはわかりました。そのうえ、ほとんどの青少年にとって、大工道具を使うのは初めての経験でした。



世界中どこに行っても、互いに助け合う人々がいます。個人的なちょっとしたことで助けてもらう人々もいれば、穀物の収穫や新しい家の建築のように、大がかりな仕事を手伝ってもらっている人もいます。

ワシントン・レッドモンドステーキ部の180人の青少年は、ある大きな仕事を手伝いました。教会員の一家族のために新しい家の骨組みを造る仕事と、教会員でない別の家族の納屋を建てる仕事です。費用と資材はそれぞれの家で用意しました。たとえば、教会員のデイジー家では、主人のウォーレン兄弟と奥さんのジェイデン姉妹、それに6人の子供たちが、のこぎりで丸太を切って建材をそろえました。

この活動はユースカンファレンスの活動として計画されたものです。彼らをよく組織されたふたつのグループに分

け、家と納屋の建築作業が同時に進行するようにしました。カンファレンスが始まる前に解決しておかなければならない問題はたくさんありました。たとえば、2件ともコンクリートを用いて基礎工事を事前に終えておく必要がありました。しかし、努力のかいあって、すべて首尾よく完成しました。この活動を通して善意と友情が培われただけでなく、青少年は奉仕によって得られる喜びや満足を体験することができたのです。家や納屋の建築作業を通して、証を築くことができました。3日間にわたって一生懸命働いた後、次の日曜日の特別聖餐会でその証を分かち合いました。

ここに掲載された写真と説明によって、そのときの模様や大会が企画された様子をお伝えできると思います。

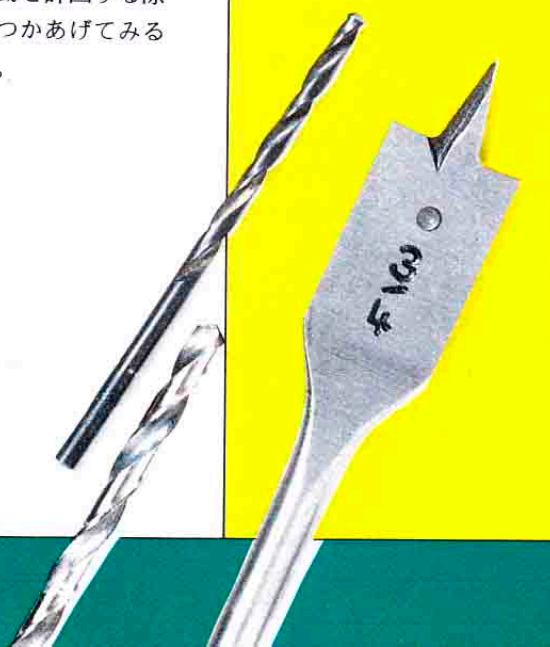


建築活動 の企画

このユースカンファレンスが成功したのはなぜでしょうか。青少年は口をそろえて「来年も同じ活動を！」と言っています。それはなぜなのでしょう。以下に、青少年のための特別な活動を計画する際の指針をいくつかあげてみることにします。



3日間一生懸命働いた後、自分たちが造った建物の中で特別な聖餐会を開いて、若い建築家たちは証を分かち合いました。



1. よく祈って活動の内容を決める

ステーキ部若い女性副会長に、祈りの気持ちをもってユースカンファレンスの活動について考える責任が割り当てられました。彼女が調べてみると、これまでのカンファレンスでは青少年に楽しんでもらおうとするものが多く、証につながるような意義ある活動はほとんど計画されていないことに気づきました。そこで彼女は奉仕計画を提案し、ステーキ部の指導者によってこれが承認されました。その後、適切な活動についてさらに検討が続けられました。

2. 祈りをもってスペシャリストを召す

企画が決まってから、実際に作業を計画し、監督してくれる専門家を探したところ、最近ステーキ部内に移ってきたばかりのタナー兄弟姉妹が適任であることがわかりました。彼らはこの計画にはぜひとも必要な、建築に関する十分な知識と豊富な経験を持っていたのです。たとえば、作業開始予定日の5日前になって新しい家の設計が地元の建築条例に違反していることがわかりました。このときには、タナー兄弟ともうひとりの専門家が相談して、何時間もかけて設計を変更してくれました。また、屋根の骨組みを造る業者が、カンファレンスの3日後でないとそれを届けることができないと言ってきたときにも、タナー兄弟のおかげでうまく交渉を進めることができ、期日に間に合わせる事ができたのです。

3. よく祈って助ける相手を決める

その地区には、カトリック教会の熱心な信者として知られたローニー夫妻が住んでいました。普通であれば、彼らは末日聖徒からの援助の申し出を断わっていたでしょう。しかし、ローニー家族とデイジー家族は、熟考の末、祈りによって選ばれたのです。ステーキ部の高等評議員がローニー氏に会い、嵐で壊れた納屋の建て替えを申し出ると、驚いたことにローニー氏はすんなりと承諾してくれました。ステーキ部の青少年が大いに努力した結果、ローニー家では、娘さんが教会の若い女性のキャンプに参加することを許してくれました。また、自分の家の農場を教会の活動に使ってほしいと申し出てくれました。それだけでなく、ステーキ部の若人のために奨学金まで設けてくれたのです。

4. 報道価値のある活動であれば、新聞、テレビを通じて一般に知ってもらう

テレビ局と新聞社にこの活動について知らせると、どちらもほんの数分だけ取材に来るということでした。最初は

あまり積極的ではありませんでしたが、いざ始まってみると、レポーターも記者も青少年とその働きぶりに感銘を受け、結局3時間に及ぶ取材をしていったのです。新聞や地元のテレビニュースで賞賛されたのは言うまでもありません。

5. 計画を大勢の人に知らせ、参加を促す

最初青少年の中には、奉仕活動を中心としたカンファレンスに対して少し抵抗がありました。そこでステーキ部の青少年の指導者はファイヤサイドを開き、計画を説明して参加を促しました。トッドという少年は最初乗り気ではなかったにもかかわらず、計画を理解してからは熱心に働いて、周りの者を驚かせました。仕事の説明を受けると、建築の専門家に負けない働きをしました。それだけでなく、トッドは別の寂しそうにしている少年に声をかけ、一緒に仕事をしたり、道具の使い方を教えたりして良い友達になりました。また、このふたりは成人の指導者ともよい関係を築くことができるようになりました。

6. 実行委員会を頻繁に開く

カンファレンスの前の3カ月間は、1週おきに必ず実行委員会を開きました。こうしてすべての割り当てをきちんと果たし、予定どおりに準備が進行するよう配慮しました。

7. タベには楽しい活動を催す

昼間一生懸命働いても、青少年にはまだまだエネルギーが残っています。タベには、ダンスやキャンプファイヤーを囲んで歌を歌ったり、グリースを塗ったボールによじ登る競争に興奮したりすることも大切です。それによって、彼らはまた次の日には元気に仕事に向かう気力をもってやって来ました。□

編集室より——皆さんの中で特に成功を収めた青少年の活動やユースカンファレンスがありましたら、その記事にカラー写真やスライドをたくさん添えて送ってください。催しを終えた後、あまり時を置かずに送っていただければ幸いです。ステーキ部とワード部の名前、話の中に登場する人については、氏名と教会での責任も明記してください。レポーターの住所、氏名、電話番号も忘れずをお願いします。あて先——〒106 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室 電話03(444)5264

11月に 召された JMTC 第102期生 13人の名簿

S:ステータス部 D:地方部
W:ワード部 B:支部

後列左から1〜7
前列左から8〜13



〈名 前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉	〈名 前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉
1. 大 井 利 仁	大阪堺S／和歌山W	岡山伝道部	8. 溝 淵 理 泰	東京北S／川越W	大阪伝道部
2. 本 橋 正 雄	大阪S／阿倍野W	岡山伝道部	9. 吉 留 里 美	鹿児島D／谷山B	大阪伝道部
3. 小 板 橋 節 子	札幌西S／新琴似W	福岡伝道部	10. 小田原充代子	熊本D／熊本B	大阪伝道部
4. 京 谷 彰 子	大阪S／東大阪W	神戸伝道部	11. 湯 沼 佳 代	札幌S／厚別W	大阪伝道部
5. 北 川 恵 子	北陸D／金沢B	神戸伝道部	12. 藤 本 洋 子	広島S／柳井B	東京北伝道部
6. 町 井 幹 子	大阪堺S／河内長野B	神戸伝道部	13. 岡 本 理 英 子	東京東S／松戸W	仙台伝道部
7. 渡 辺 敏 嘉	高崎S／宇都宮B	札幌伝道部			

